

日本書紀傳

廿六丁卷
五止

和書
一〇五二號

二十七

内閣文庫			
番號	和	10522	
冊數	156 (96)		
函號	特	85	1

内一六六八二號



教部省
文庫印

直政官
文庫

高田
文庫

歩赤坂里廿七坪内と有て美波比を尔波比足有小就

て或人此を庭父神ある可き由云るハ實小然る言ふ

れ當郡大歳神社積川神社五盛鉾聖神社和泉郡聖神社式小見えたるハ此

御神の御爲小御父と坐し御兄弟小御在し坐す上ハ

其由縁有る御事共ありけり或人美と尔と通し例を

段小迹本杼理と有を明宮段小ハ美本杼理と見え新

孫字鏡小晴を尔加年詞を牛乃尔介加三難を波尔加

年又久不齋を波尔加年又久不齋を波尔加年又伊女

久あど教多有を同書小唱を牛乃美加年と見え万葉

の尔伎多豆を伊藤風土記小美和豆と有少士生ハ

尔布あふ事勿論ふるを皇極天皇御紀小乳部此云美

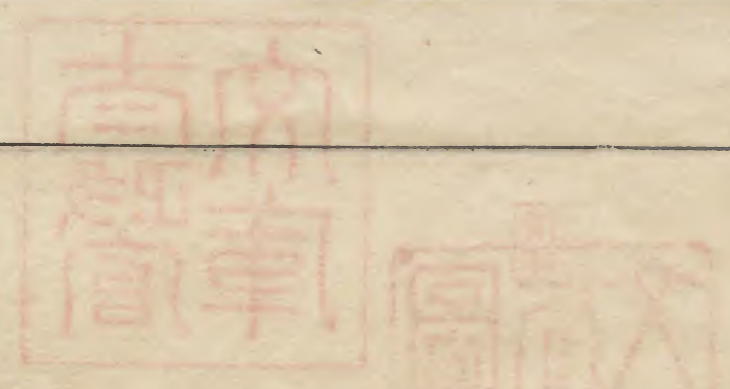
文と見え壬生氏の建ける御門を美福門と云ハ輔仁

本草小尔加奈と有を康頼本草小美加奈と有少と云

り是即此の美波比ハ尔波比阿須波神波比政神此

あり可き實小慥あり證あり

二柱神の御子名ハ合せて此小註ハ奉る可きカ阿須波
神ハ大柴神ト申す義波比岐神ハ灰木ト申す義小
共小竈木神小御在シ坐シ神名武神祇官西院坐御座巫
等奈神廿三座の中小座摩巫祭神五座並大月生井神
福井神網長井神波比祇神阿須波神ト見えたる上の
三神ハ大己貴命の御子御井神を別ち御功用小依
へる御名あり事已小祝詞講義小註せるが如ク若ク
此二柱ハ其竈木木を主トとせ御在シ坐ス一神を柴ト
木ト小祇別トせ給へる小ト決メて別神小御在シ坐ス
まト事次小云ハ見る可ク古語拾遺神武天皇改爰



仰從皇天二祖之詔建樹神籬云ニ坐摩ト有ル下小是
大宮地之靈今坐摩巫所奉齋也ト注セる是即高千穂
宮以來の舊儀を中洲の皇大宮小移トせ給へる御政
小御在シ坐ス御事申奉るも更あり其祈年月次等祭
詞小座摩乃御巫乃祇辭竟奉皇神等能前ル白ク生井
策井津長井阿須波波比支登御名者白氏祇辭竟奉者皇
神能能敷坐下都磐根ル宮恒太知立高天原ル千木高知
氏皇御孫命乃瑞乃御舍乃仕奉氏天御蔭日御蔭登隱
坐氏四方國乃安國登平乃知食故皇御孫命能宇豆乃
幣帛乃祇辭竟奉久宣ト有ル此詞を讀味乃小實小

大宮地の神に申奉る謂れ正小在る事あり然るに此
五柱の御神等ハハハ井神ハ新神との云小御在し坐
て土地を掌給ふ神小ハ御在し坐さる故小神名式小
西成郡坐摩神社大月次坐を以て仁徳天皇の難波高
津宮の大宮敷給はる其地の神小坐を後の遷都小ハ移し祭るれ
て大宮地の靈と祀祭る事小心得又ハ同式小越
前國足羽郡足羽神社有を以て継体天皇の大宮地の
神を京小遷奉る此たる御事と人皆思へる古語拾
遺小爰仰從皇天二祖之詔と有を如何小見つるあり
甚心著無事共あり抑上古小皇大宮を建さ給ふ

小ハ先水理を撰ばせ給ひ次小柴薪の便理を撰ばせ
給ひて其二共小其地小豊饒ふる處を檢察させ御在
し坐て然てふむ皇大宮ハ造り住給ひけし右の詞
小皇神能敷坐と有ハ生井も有少柴井も有少細長井
も有少御垣を遠く出ずして柴あり薪あり物澤小満
足ひて其用を為すふむ即其神等の然る物を備へ給
へる神地の由小申成して其地小皇大宮を定め給へ
る由小其例多し事ありける其一例を云ハ大忌
御膳能遠御膳止赤丹能禰ハ聞食皇神能御刀代于始
氏云ハ有て天皇の供御の御田をす神の壺田と
さへ小詔給へり此ハ右等ハ本より造宮使の撰ぶ
事小大宮地ハ云迄ハ無く天皇の御處あるを其神

の方小係せて申せ給へる小て萬小神の御所爲を
今日の現事小申成せる者あり万葉一卷幸吉野宮
之時柿本朝臣人麻呂作歌小安見知之吾大王神長柄
神佐備世須登芳野川多藝津河内尔高殿平高知座而
上立國見乎爲波疊有青垣山山神乃奉御調等春部者
花挿頭持秋立者黄葉頭刺理遊副川之神母大御食尔
仕奉等上瀬尔鷄川乎立下瀬尔小細刺渡山川母依氏
奉流神乃御代鴨反歌山川毛因而奉流神長柄多藝津
河内尔船出爲加毛と詠るハ歌かがる小其意味能似
たる事小し上代の意を見ら小足らう故因小引出つ
記傳小己小引れたら大嘗祭儀踐祚大嘗祭式等小
此二神を祀らる事所見たり今式文を以て云へし
其齋郡齋場條小院內方十六丈以柴爲籬編木爲扉即
於齋院祭神八座御歳神高御魂神庭高日神大御食神
大宮女神事代主神阿須波神波比伎
神其幣云々凡齋郡之齋院祭神八前下部二人
給明衣

並と見えたるを在京齋場條小但御御造棚別置祭御
膳八神於内院其幣
准上と見え解齋條小九大嘗祭畢差祢
宜下部二人遣兩齋國祭御膳神即爲解齋明日燒却齋
場とし有て右の神等を御膳八神と申す小就て推す
小御歳神の御稻神小生ら故小此小主と祭ら給ひ
高御魂神ハ天照太神と共小齋庭之穗を事依一奉ら
せ給へる神小御在し坐し庭高日神ハ右小謂ふ庭
火皇神小し御竈神小渡らせ給ひ大御食神ハ豐受
大神の御事あれバ大御饌神小御在し坐す事申す小
更あり事代主神ハ天孫降臨章小以釣魚爲樂或日遊

鳥爲樂之所見たる如く小御贄小就て祭るれ給ふ
 あり有べしして何れし御膳神と申奉る事甚其謂れ
 有り然る小記傳十二四十小右の文を引て阿須波ハ
 足場波比岐ハ波比入君の意として拔穂より其を京
 小運送る迄の禮との事を行不足場を守坐が爲小祭
 るるゝあり可しと云れたる理ハ然る事ふぐ御膳
 神と云小叶ハず御膳神と申奉るりり其御膳小就
 たる神ありずハ得有ましりけれハ借考る小中臣
 壽詞小物部乃人等酒造兒酒波粉走灰焼薪採相作福
 實公等大嘗會乃齋場仁持齋波參來氏忍美忍美清麻

波利尔奉仕利有る此灰焼薪採小就て考有り式小
 卜定田及齋場雜色人等と有る中小焼灰一人採薪四
 人と所見たる其焼灰の職掌ハ允造酒司酒部一人率
 焼灰一人駈使五人入下食山先祭山神焼得藥灰一解
 云と見元儀式鎮大嘗宮齋殿地條小下時焼灰率造
 酒童女參進童女始鑽木燧次稻實公鑽出入次焼灰吹
 火次子弟以拓明炬火と有れハ灰焼と云ハ火を焼く
 物部あり薪採と云ハ本より其薪を伐る物部あり事
 論を待す此を以て見ると時ハ阿須波神羽波比岐神ハ
 柴薪の神小御膳を炊くハ止事無き神小渡る

其波比岐神を灰木
 神と云い方言小波
 比木と云小同トク
 焼て灰と成す木の
 枝木と云ふるハ多
 少鏡亦部小標徒
 舍及木名ハ可辨徒
 此乃木と有ハ灰を取
 る爲の木名あり又
 楷二字波比乃小
 有ハ右小同トク
 此ハ波比岐ハ灰小用無
 物を煮焼爲るハ
 其意ハ異なりトク
 言ハ相同トク有
 あり



小古有鑽燧改火之義近代廢絕於是上表請變火臣謹
案周官四時變火以救時疾明火不敷變時疾必興聖人
作法宣徒然也晉時有以浴陽火度江者代二事之相
續不滅火色變青音師曠食飯云是勞薪所變也晉平公
使視之果然車輞今温酒及灸肉用石炭柴火竹火草火
麻肉麥火氣味各不同以此推之新火舊火應有異伏願
遠遵先聖於五時取五木以變火用功甚少救益方大縱
使百姓習久未能頓同尚食內厨及東宮諸主食厨不可
不依古法上從之也見元宋史趙師氏傳改火之事
火を忘る事知る又晉書荀勗傳小嘗在帝坐進飯謂
在坐人曰此勞薪所炊咸未之信帝遣問膳夫乃云實用
故車脚舉世伏其明識云云右の如く舊火新火の事
を云れども淨火穢火の事を知らざるが故に其酋長た
る者の厨家小故車脚を焚く事如何小汚穢事不
らずや況て其下様小於て糞土小棄たる勞薪を用
る事想像る可し然る小我皇大御國小神代より其
薪を主る小此二神御在坐御神事の御時ハ申奉
るは更あり尋常の御飯申せども清火を用ひさせ
給ひ其薪をさへ小止事無き物小爲させ給ふおむ甚

ニ尊く悦ばし御事小末々小至る迄し其手振
を失はざるハ然ハ云へ神の御國の徴ありけるを却
りて此を嘲笑ふ者小有ハ中々小國賊とし乱民とし云べき者なり記傳十二四十小万
葉廿二十上總國防人歌小尔波奈加能阿須波乃可美
尔古志波佐之阿禮波伊波二牛加倍理久麻侶尔此歌
小庭中之詠省を以て富音氏家の庭小竈神おど共
小此阿須波神を七祭り一事知べ一偕此神を祭る上
ハ庭高津日神波比岐神おどをも同トく祭りつむ
標と云れたるハ實小然る言小て其庭高津日神ハ上
謂と云れたる此者諸人以并竈神者也と有ハ本よりの
事小波比岐神ハ此阿須波神と同神とし聞えたる

公見守小釜の上小
招木の葉ふしを
手向るなりしと云
るが如く

ども柴と薪と小御功用を分て祭るが故小竈神と祭
る所ハ正小此三座ある可く俗小竈神を三寶荒神と
ぞ恠しき御名を申すころり悪む可なり此三寶ハ三
座の謂ある可く荒神ハ内膳司の御竈神を庭火皇神
と申す上を去て下の皇神を荒神と字音小換つる者
あり可く攝津志小攝津國河邊郡阿須波神祠在米谷
村今称荒神と云るを以ても此御神將右の三寶荒神
の中ある事を知小足れり右の三句小古志波佐之と
云るハ今諸國あり庭中ある大竈の上小花瓶を居小
松又ハ賢亦を挿入て常小竈神として祭る風俗の古よ

り然有しありけり阿柳波伊波ニ年加倍理久麻佐尔
ハ己ガ家の竈神小柴を建て齋奉り行前吾其齋主と城ハ此無
く事無平けり在て還來其家炊く飯を食ハむ
と云事あり今と雖も人の旅行あり必其祭を成し
發達へき故實を知べし歌あるがうり上二百二小注
せるが如く行幸行啓あり必竈神を供奉ししめ給ふ
御政の御在し坐小思准ふへて上代の風儀をふむ明
くめ知べりけり然るを袖中枚小上總國小阿須波
と申す神御在すと云るハ國ニヤ然る社の有る其之を取てある者も可記傳ハハ辨ハハ如
く非あり事ハハ便あり又事跡雜纂と云物小阿須波

公ありて名寄小本
更味子ありや灼
然阿須波の宮
小柴神ありて又別
るれ阿須波の神
返りありて向ふ土
産小柴神ありて
有れ其社小就て詠
状あり

大明神鹿島本縁云阿須波大明神社在下總國香取郡
是祭大己貴命兒阿須波命也於旅行者發駕時就此神
而禱之於庭上小柴祝首途次此今俗稱旅出口鹿島立
こ有八万葉の歌小依て後小祀れる又一本より其
御社の上代より此小立せ御在し生り何れありて也
面白き事あり但右の禱之庭上小柴といふ其社の庭
上を云ふ非ず庭中小常小掃置る小柴を神体とい
て祭る由あり万葉の歌の趣小異あざざる者あり
祭小常陸國鹿島小阿須波明神の社有り前立社とい
ふ新千載集小頼むるよ阿須波の宮小掃す柴の詠
より出たる由鹿島本縁小見えたり本社より起れ

公今武蔵國龜戸小
香取神社ありて
其神ありて祭る
ありて阿須波神
といふ阿須波神
其本宮の事あり
合す可し其事あり
小就て

る誘ある可しと云るハ云れたり息ふ小香取鹿島両
大神ハ上古より軍將の征戰小出立ふハ必忌免を居
て祭る習俗ありハ此阿須波神ハ其家ありて祭る
事小有れども共小發達の時小行ふ事あり故小
終小香取小鹿島小其社を定むる事小至れ少
者ある可し傳記傳小右の歌ハ末二句を味ハふ小彼
阿須波神ハ己が家の非で行前の宿この家小祭
れを伊波比つ行むと詠るハ何國小て小家
毎小祭る事知れたりと云れたりども然小非ず此
ハ歸來て迄の無事をこころ小家ありて祈奉る事ありけ
れ大人ハ足場神と見られたるハ常々改神名式小山
の事小混れて此説の立方甚常々改神名式小山
城國愛宕郡大柴神社古本小大月次相嘗新嘗と有り
補ふ可し但相嘗祭式小載るハ其二字ハ省く
可し山城志小今在下小野俗稱落葉宮是字と云るハ
然る言小て是阿須波神ありと云ハ大の意の阿ハ

越前國郡名御
名共小足月を御
須波之有を記傳不
引れたる万葉集に
河内國の足羽
河多志波川あり
是より須波の土波
と云ふを知てし

出雲風土記の神名小阿陀加夜努志多伎吉比賣命と
有ハ大高屋主高田城姫命の義あり是あり須波ハ志
波の通言小イ敷葉の是義あり是あり倍上代竈小焚く
柴を小甚く忌清めける事ハ万葉四十四下七小大原之此
市柴乃八五下十小灼然此五柴尔十一下十四下小道邊乃五
柴原能有有イフカシ巖櫃之本ふ云ふ巖小同トク
一イ忌清めたる謂是あり上古小薪木を忌清め慎
ミテ神を其一イ竈神ト共フ並合せ祭る所以正小此小
在る事あり一倍後の歌あがる新續古今集小深山
邊を今日越來ハ推柴の枯葉小集ふ玉巖哉白川殿

七百首小吹荒ハ深山嵐ト麓ハ櫛の葉柴小音立つ
あり堀川院次郎百首小何時ト無く葉易ぬ山の推柴
小人の心ハ成す由トがふ又生立てハ推の真柴ト成
つあり譬ふる方ト無ク我身哉又真柴ト狩場の小
野小雪降テ亭木小泥ト遠の里人又奥山の習ヒ成
れハ穴アチレ師シ氣ケの雪ト先小薪クサ採コ積メ又採コ積メ
無クせハ冬深ク片山カタヤマ著ツキ小如何トで住マシ又深山柴已
ガ竈小取トリ焚ヒテ朝食夕食の烟立ありあト猶有べきが
推又櫛ハあトを柴ト詠フ大嘗祭式大嘗宮條小將柴ト為
垣押ハ梓八重垣末柱將推枝ト古謂所謂志ト有クを推ハ以

小字鏡小柴を小水所
和良木に有し小水
惟三弱枝又犬弱木
じふは是なり

下柴と爲るあり諸右の大柴神社を今落葉宮と云ひ
其落葉と布志と終と訓るは全く右の柴薪小因れる
事なり此小野郷へも歌詞小多く炭竈を詠こ又ハ
推柴の事をし云れハ其事小就て此阿須波神ハ祀ハ
れさせ御在し坐ある小こり 名勝迹志小落葉宮在小
野下村民居良鳥居南向
并殿同社同所奈社記未考土人傳云柏木衛門督の心
を寄せし女三宮の靈と云ふ是虚説ありむ彼源氏物
語ハ高宮ありを不知哉云と云るハ然る言あり其
ハ此宮を落葉宮と申来りて大柴神社ある傳を失ひ
たより出未る妄説あるあり取不足すと雖も其柏
木衛門督を寓言せりハ神事の辨ハ此小令採りれし
所縁小由れる者ある可けれハ其據有じ云べし炭竈
の歌ハ續古今集小小野山ヤ焼く炭竈小採り埋む
事木共小積る年哉風雅集小炭竈ハ烟小春を立り
隠て佗目霞める小野の山本新拾遺集小雲ハ猶埋ま

と果ぬ炭竈の烟吹く小野の山風おど多し又推柴
を詠るハ堀川院次郎百首小降る雲を止めここ
と小野山小推柴刈るハ暫時許少ざと有ハ更あり右
小引る真柴刈る狩場ハ小野小云こ此地小係り詠
るあり但此小野の地今ハ葛野郡小收れり岩屋の北
二十餘町小在り上小野下小野東河内西河内上村中
村下村真弓細川河杉坂等の十村を合せて小野庄内
ありと云り又伊勢物語第八十三段小小野小詣たり
小此叡の山の麓ありハ雲甚高し云こ有ハ大原の
傍と聞ハ然れども今其地ハ小野の名無くして此小
小野庄有る上ハ廣き小議りて此處と定む可し初名
枚御名小愛宕郡小野字乃と云るハ猶此叡山の西麓
ありハ如何其餘小此神等を祀れる神社ハ神名式
可くや如何
小攝津國西成郡坐摩神社 大月次 已有て幾座ハ無
れども上小引る座摩巫祭神五座 並大月
次新嘗 生井神福井
神網長井神波比祇神阿須波神と有ハ祭神等ハ有る

公事林小集公朝
郊歌小渡邊や橋
の上手を右より多
在る岸の事社感と有
を以て思ふ可

公應神天皇三年上
月百濟辰斯王遣記
南宿祢神日天武天皇
神令代高日於難波
沼中祀之依爲御主言
第一稱神と有る傳の
如くある所也

可し其ハ臨時祭式小凡座摩巫取都下國造氏童女七
歳以上者充之若及嫁時申辨官充替と有ハ京住の國
造氏の事あるが姓氏録攝津國神別天孫小國造天津彦根命
男天戸間見命之後也と有て攝津國造あるが此童女
を以て座摩巫と被定るを以て知る三代實錄小貞
觀元年正月十七日甲申奉授攝津國從五位上坐摩神
從四位下と有る是あり百練按小元仁元年四月十三
日有軒廊御上住吉末社座摩社門并荒垣等去年十二月
十七日燒亡事と有て住吉末社申成事其來由詳
あり若くは頭註小攝津志小在石所時其地北曰據岸舊有數十小祠

皆属城内天正中遷置圓江側因公刺婦曰渡邊所と見
ゆ今社説小豐受大神と云るハ頭注小坐摩神功皇后
也凱旋之日於此所飲食也依名と有る因て推度小云
る者あり飲食の御事小就てハ御井神御薪神を祭る
小なりと爲むハ何れハ又式小和泉國和泉郡積川神
社或社記小云く積川大明神者生井福井網長井波
比政阿須波神也と有り上の三神ハ此國小由有げふ
る事共小ハ和名按小國名和泉以都郡名和泉國分置
郷名上泉加美都下泉ふと見え式小和泉神社泉井上
神社泉元師神社二座と有る此二座ハ別うとハ思ゆ

公後紀小松仁十四年秋
七月丙辰奉和泉國
積川社幣一幣也

山未保

此とも上の二社正御井神共小御井神御井神御在坐
りめ然れ此積川神社五座有ハ此二神カ御井神也其より合せ祀り座
摩神の本社ありあり有てくや續後紀小泉和九年
十月辛酉朔己巳奉授和泉國無位積川神從五位下三
代實錄小貞觀六年二月十三日 授和泉國從五位
下積川神從四位下同十五年四月四日授和泉國從四
位下積川神從四位上所見たり此御社今も積川村
に云小立せ給ふと云り 因云古事記八十神段の終
刀阿多波志都故其八上此賣者雖率來畏其嶺須世
理毘賣而其所生子者刺殺而返故名其子云未保神亦
名謂御井神也有此時の事を御文須佐之男大神
の根之堅洲國小御在坐ける由小書されたるハ記

公由小依後小御
井神を遺すは其
遺

公此傳事小就之
有少傳可九卷八十
三下見也

の誤あるより其實ハ紀伊國の須佐小御在坐ける
に所思る由己小傳十三卷十四卷小委一注せる
如し其大穴年遲神后神を携せ給ひて紀伊國より
出雲國小還りせ給ふ時此國に御井神を令坐給ひ
けむ此に留り坐つるを大年神の御子あり阿須波
神波比岐神此國小生出さ也御在坐ける共小御力を
合せ給ふ御事成此積川神社す始て上件
座摩巫奈神社小坐摩神社小相等し五座神共
小並び御在坐す 又神名式小越前國足羽郡足羽神
社和名抄小郡名足羽波 郷名足羽波 有る是亦
少記傳十二一五下小越前足羽社記曰古者男太迹天皇
居於坂井郡三國之地於是鎮祭大宮地之靈故呼足羽
以為地名也と云る此説古き傳に聞ゆ大宮地之靈を
鎮祭とい此の阿須波神を祭給ふを云ふと云れり

公但古小引... 依之時此御時... 在坐ける... 奉る... 給ひて... 坐ける... 神... 成れる...

る實小然る言あり右の男太迹天皇と申奉るハ継体
天皇の御事小一々應神天皇より五世の御孫小渡
せ給へり其三國の地小御世を累ねて御在坐一問
小其宮中不てし朝廷の如く座摩神を本より持齋
奉るせ給ひ來りしを此天皇小至りて京小上るせ御
在坐ける持其故郷ふるを以故有り其地小遺一祭るせ置一けむ
こり想像を奉るふるある然れば右小大宮地之靈と有
りる其阿須波神の五と一例の五柱神の合せり一座此小祭るせ給ひけ
む事申すも更ありり大同類聚方小阿須波藥大已
貴命方古志臣阿須波丸之古傳方と云事有り上小引

今大己貴神... 相殿小祀... 坐る... 國... 御... 成れる...

る鹿島本縁小大己貴命兒阿須波命と有れば大年
神の御不あり事を取違へたり一説中頃小在ける
あり可一又記傳小云ればる如く其五座の中小福
神社見元今又福井と云ふ地名有り又網長井神ハ同
郡都那高志神社と其名相似れば阿須波波比岐二
神ハ右の足羽神社小祭るせ餘ハ三神を放ちて別
こ小祭るればけむを生井神小當り可り神社と御
在さめども今知るればぬかめり又足羽郡御門神
社御在坐今宮中祭神ハ三座の中小座摩神五座御門巫祭神八座と有て並ひ給へれば彼此大由
有る事共あり此を以て其社記の字ありざる事ハ知
りる ○香山臣神ハ上百十不注るが如く先小取
香用此賣生子大香山戸臣神と有り此ハ又娶天知迦
流美豆比賣生子香山戸臣神と有り異腹小一其兄

第同功の神御在一坐へ理無レ疑ハ一ニ就テ
正一見ル天知迦流美豆比賣命ト申ス雷龍神の御
事小大年神の后神あり事乙百三十小辨
へた如くあれ此香山戸臣神ト共小香用比賣命
の御子小坐也彼大香山戸臣神ト對人然申せる
あらむと見ル小一獨一神小大一唯上小一冠テ申
せるのと別神御在一坐ま見えたり吹
ある羽山戸神ト考合す可きあり○羽山戸神山戸ハ
上二百下十小一法る如く山戸ハ山區小一國の奥區あり
平坦あり田地を云あり儲上件大香山戸臣神香山戸

神ト申す香ハ御祖香用比賣命亦名神須治曜姫命の
御名の香用を上小冠あり也奉けるあり此の羽ト然
り羽山ト續り四神出生章第八一書小謂由麓山
足白麓此云數耶磨ト有る其例ありハ異小山戸
と續り羽小別意有あり故思ふ小一瑞珠盟約章素交
鳴尊小瑞之八坂瓊之曲玉を進れる神羽明玉神ト
申す御在一坐ハ映明玉神あり此波延を切めて羽ト
ハ冠あり世奉れるあり此ハ右の香用又曜ト同ト義
あらし聞ゆめり如此ト三神共小御名の意皆あり小
一小歸るを見れハ共小別神御在一坐ずて御

年神の別名小御在坐めり然思定事小次小此
を兼ハス小羽山戸神娶大氣都比賣神生子若山咋神
次若年神次妹若汝那賣神次苡豆麻岐神次夏高津日
神亦名夏之賣神次秋毘賣神次久久年神次久紀若
室葛根神と有之此御子神等八神の中小若山咋神を
除きて何れも田を管之事小御功御在坐す神を
る麓山を守ら神等の御子と爲り似氣無ハず且大
氣都比賣神と申すハ豊受大神を大御膳神と申奉る
ハ御功の同トハ神ハ御年神の御事ハどハし
ハ似着ハハくハめ山神の右神ハハ如何又此段ハ大

年神御年神と同功を以て受継がせ給ふ次第ハ小
此御年神小御子神の御事見えず古語拾遺小御歳神
之子と云事有小ハ非合ハ羽山戸神の御子小若年神御
在坐事疑不可ハ此小此三の疑有を以て此を思
ひ思ふ小羽山戸神を御年神の別名と見ハ時ハ上ハ
小大年神御年神若年神と續ハて上下相貫ハ條理相
徹ハりハ此一段の趣意實ハ明ハるハ小ハ滞ハ所無ハ
者あるハりハ然ハ上ハりハ次ハ論定めたるハ如ハく
申す意ハふハ御年神の火食を天下の人小幸給ふ亦御
名あり又大香山戸臣神香山戸臣神羽山戸神と申す
ハ御年神の山ハ臣ハ謂ハ申ハるハ國の眞ハ秀ハあるハ田地を子
とせ給へる別名小御在坐すを各別神の如ハくハ傳

ハ少別祀たる者也
○庭高津日神ハ上小庭津日神の
御名御在し坐る其也一神あり證ハ右二百十小注也
如く常小内膳司小齋奉らせ給へる小庭火神
と小庭火皇神と申奉れる小大嘗祭儀小此也同
小庭高津日神と見え式小庭高日神と有て同
小御神ある事知れなり記傳十二一五下小御兄小同
名有少彼神と同ト功德の御名あり然る小此ハ其功
の殊小勝り給へり故小御弟おれども高と申す
可しと云れれども其式文の正一無くて本の
任小別神と見り此たる故小此説ハ耳あひ難し予先
不思

けりくハ大膳職式小齋院高倍神一座云々竈神四座
云々菓餅所火雷神一座云々宮神四座云々と見え
高倍神ハ高竈神ハ尋常の庭火小別称へり此
る者と見ゆ此ハ庭高竈神ありと思ひしりども
常小忌火庭火と並へ申して火小依れり高の言を聞ゆ
此ハ此考ハ甚悪りけり庭津日神ハ高の言を加へ
て祢奉れり見し
○大土神亦名土之御祖神ハ皇太
神宮儀式帳菅度會郡神社合早處の中ハ大土神社一處に有
を神名式小ハ大土御祖神社と有合て本名亦名共
小合少記傳十二一五下小此ハ殊小民の佃り田地あり
の土の事小功德有少神あり然此ハ大ハ土小係る小
ハ非ず此神小係る美祢あり万景十一ハ小大土探雖
盡こ有る此ハ土小就たる大あり此ハ異あり

〇云れたるハ實不能ト如此云別た北なりけりト奇
小云迄小おも儲大年神ハ小福穀の神あり其神子
小土を以て祢奉る神の御在ト坐すハ必右の如く有
べト事あり小就て熟思小上代本記小宇賀大土御
祖神ト申す御名の御在ト坐る不其愛た其ハ上七
行小云る不如此宇迦之御魂神の御子大土御祖
神ト申す義小出たハト如此續け云時小宇賀ハ福
穀あり大土ハ其を佃る田土の事あり甚謂ハ有て聞
ゆめり然れハ此宇賀神大土御祖神ト申すハ亦名小
例小立へるト事申すハ更あり又度會宮別宮の中

小土宮ト申奉れる有り此ハ右の大土神社ト同神小
て渡り也給ふトむを長秋記小外宮地主神也ト書
傳記小ハ山田原地主神大土御祖神ト云ハ神名秘書
小ハ宮川堤守護神ト云ハを以て考合する小田地ハ
土ハ云ト更あり屋敷小堤小土を動りして
物爲ト事小ハ悉小係ト也給ふ神ハ渡りせ給へ
を其中小殊小廣く遠く遍る物ハ田地あり故小殊
更小宇賀大土御祖神トハ祢奉る小有り但然云
國主神の天下を主領り給ひ又大國魂神ハ大地官を
掌治給ふ事ト一ト成れり如ト雖ト然ト非ト其
大神のハ全体の大地を給ふ事ト田ハ何ト抱
ハトせ給ハず其抱て小渡り御事あるを此大土神の

ハ然らず田の堤を盡して成す所を主り
給へる小人の屋敷を守給ふと云ふ其土功の依化
るあり諸今諸國の稲荷神を屋所神と爲る事の上
社を懐田彦神と又土御祖神と云ふ一説有る依
てあり其稻荷神社ハ其此神の御父大年神の亦
名字如之海魂神と申す御名を以て齋ハ此給へ
るを此神と其御名を負持して宇賀大土御祖神と
申奉る御名御在し坐せば屋所神として祀ハ此とせ
給へる事ハ大御然る儀式帳ハ大土神社一處
謂ル有る事共あり然る儀式帳ハ大土神社一處
祢國生神見大國玉命次水佐之良比賣命佐之良比賣
命形石坐倭姫内親王定祝と見え此の大土神ハ
異ある状あり其國生神と申す神名式小度會郡校
田國生神社坂手國生神社川原坐國生神社大間國生
神社と有て久近那理と訓む事あり同帳ハ國津御社祖神

一處祢國生神見宇治比賣命形石坐又田村比賣命形
無神前神社一處祢國生神見荒前比賣命形石坐又荒
前神社國生神見荒前比賣命形石坐と有り今姑く其
神前神社小就て考ふる小神名式小讀政國寒川郡神前
神社今遊良山と云ふ御在し坐て祭神ハ幡宮と申せ
る小意を得て三女神小渡りせ給ふ由己小傳十五
七十二小注るが如し又右の田村比賣命小就て同國香
川郡田村神社名神一宮記小猿田彦神也と有る右の
猿田國生神社小由有るハ國生神と申すハ素戔嗚
尊小御在すめり然る時ハ右小大國玉命と申すハ別

公又武川名國
生神社ハ幡小
社一處田彦神
形無同内親王
有て此小國生
讀神名と見え

神小非す即大國主神の御事小渡りせ給ふあり古語
拾遺小大地主神の御名御在り坐一坐仁天皇二十五
年御紀傳大神の御言小我親治大地官者有を私記
大地官於保津知津加左に訓るを見れば右の御名ハ
大土主の如く訓へり此大土神社小由有少神
鳳被小三重郡大土國玉神田に有を証爲べき者
あり又水佐と良比古命佐と良比賣命ハ傳記小亦洗
鼻因以生神号速佐須良比賣神與素戔嗚尊合力座給
也也有て此神ハ大祓詞小根國底之國小坐と見元尾
崎神社記小土藏靈貴ヨモツムナに有れば地下根底より頭國を

持たせ給ふ意あり可し然して御祖神と申すハ極の
例何れハ女神なる例ふれば大土神ハ大國玉命小當
天カミ土御祖神ハ右の佐と良賣命小當りハ亦名小
ハ非ずし力を合せて御在り坐す神ありけり伊勢風
土記小天日別命の真國の事を書せる小爰大國玉神
資弥豆佐と良比賣命參來土橋郷岡本村中略自尔度會
焉因以爲名也と有い此邊の地主神なる事申すハ
更あれハ此小合す時右の二神ハ大土神大土と出大土之御祖神と小當
れ傳九頂若くハ此小大年神の御子と有ハ誤傳ある小
も有るむ此儀式帳の趣を立て云ふあり此外宮土宮の御事を注し奉る小合せ

右の國主神の御
事小記に少く異なり
見解有る傳に考合
す

考不可し右の世記の文小照し見り小儀式帳の水佐
ニ良比古命リコノミコ行ユク小コ佐サ良比賣命リコノメ一柱のヒコあり可
く所思オモヒ又豐受宮別宮小土宮トノ申す御在ミマシ坐イけり儀
式帳六月例小十七日即更地神チノカミ神酒カミメ一金供奉イカネノケ有
る地神是あり可し倭姫命世記小土御祖神二座ニイ有
下細書小宇迦之御魂神上ウカノミタマノカミ之御祖神形鏡座寶鏡座タマシヅメノカミ
所見たり傳記小大土御祖神二座宇賀之御魂神土
乃御祖神亦衛神ウヱノカミ大田命オホタノミコ有る此一座ヒトイ猿田彦神サヘノヒコを
大田命の事オホタノミコノコト為ナ後人の説ノチノトコト依ヨりシあり此コト世
記の傳トコト小異コトありズ上代本記ノ小宇賀乃大土御祖神
素戔嗚尊スサノヲノミコ子也度コノミコト又本縁ノ小宇賀乃大土御祖神ウヱノカミ
會山田原地護神ウヱノカミ又本縁ノ小宇賀乃大土御祖神ウヱノカミ
御魂神ミタマノカミ

是素戔嗚尊スサノヲノミコ之子也大土御祖神是素戔嗚尊スサノヲノミコ之ノ若此
子大年神オホトシノカミ之子也号度會山田原地護神是也
様サマ小云コト凡ソレどモ正マシくハ宇迦之御魂神土之御祖神
二柱のニイあり神名秘書ノ大治三年六月五日官符改シ
社号為官預祈年月次新ノ嘗神嘗祭幣也ノ是官川堤為守
護神也保延元年遷宮之時造官使親章造進之ノ有リ
此御世小宮号の宣旨を進メせ給ル入り長秋記ノ同天
皇長承二年小土宮准七別宮可預官幣云ノ同三年六
月十一日按察使來談云明日可在シ仗議事朝家大事必
可參豐受大神宮土宮被外宮地主神也然而年來無預
官幣而今度准七別宮可預官幣之日自本宮依申請已

蒙裁許仍重申請云御殿元高五許尺也而准七所別宮
者每年荷前幣物可納御殿内也幣物二十年遷宮外無
取出事者不大造於御殿件物無可置之處者准内宮荒
祭外宮高宮可被造此御殿一文許有何難哉云二同宮
自亦東向也而太神宮並七所神宮皆南向也今度准化
社可造南向歟云三土宮地主神也無知造社本縁之人
自昔東向奉居何定改乎之所見又弘安九年參詣記
土宮大治三年六月五日所河の功小依日宮号の宣旨
を下さ北長兼二年八月三十一諸別宮の例小任せ幣
を送り奉る可きあり云云此土御祖神社ハト右

小法七る神名式の大土御祖神社と祭る所等し
が如何祖右小引る上代本記又御鎮座本縁等の宇賀
と有て宇迦之御魂神土乃御祖神と並べ云るを
合せたるも思申れども外小宇賀魂大年神又ハ宇賀
之御魂稲女神と申す神名の例有り神名式出雲國出
雲郡小神魂伊能知奴志神社神魂伊豆乃賣神社又ハ
大穴持伊那西波伎神社大穴持海代比古神社大穴持
海代日女神社と如く其由有る神力御祖を上小
冠ふくせ奉る古の常ありけれ此宇賀乃大土御祖
神と申す神名は限り
て誤じ云べし
○右件大年神御子神等合せて
五柱あり本の如く、右神三柱御在し坐て伊努比賣
命の御腹小五神香用比賣命の御腹小二神天知迦流
美豆比賣命の御腹小九神合せて十六柱の御子神坐

る状ふれども伊努比賣命香用比賣命同神ふり天
知迦流美豆比賣命傳の誤と聞ゆれば后神も唯一
柱小過す又御子神等の御事小大國御魂神韓神曾富
理神大山作神の四神以外より混雜りたるふれば除く可く然り大
年神より其徳を象給ふ所を以て御年神其正嫡小御
在り坐す事申すも更ふれば此を本とし向日神聖
神日向飯あり飯知あり其事を掌給ふ亦名あり大香
山戸臣神香山戸臣神羽山戸神其神の山區ヤマを田地
に成し給ふ御功を以て祢奉れるあり皆其別名あり
ければ是迄皆御年神一柱坐るのこありり次小奥津

日子神奥津比賣命神世七代章小謂ゆる男女耦生
之神の状あり故小此より二柱を合せて一神と爲り
次小庭津日神庭高津日神其各二柱を惣申せる亦名
ふれば此迄も亦唯一神とあり其次小阿須波神波
比岐神二柱坐るは大土神と併せて五柱の御子神が
御在り坐ける但其中小阿須波神と波比岐神の二神同
神あり可く所思し事と有ればと大
曾奈式御膳神八座の中別下小御名を擧るれば
を據るとし二神と見るとハ一ハ薪神一ハ燒火神りと
と思ふる
を以あり

羽山戸神聚大氣都比賣神自氣下四
字以音生子若山作神次若年
神次妹若汝那賣神自汝下三
字以音次祢豆麻岐神自祢下四
字以音次夏

高津日神亦名夏之賣神次秋毘賣神次久久年神久久紀三次
久久紀若室葛根神字以音上件羽山戸神之子自若山作
神以下若室葛根神以前并八神

記傳十二五十四小若年神以下五神の御名共を連ね
て説べき考有り其の先若年の稲の苗の始り生たる
を云ふ汝那賣ハ汝之女子で汝ハ田植る事有り其豆
岐ハ田小水引を引するあり夏ハ成立ハ此ハ稲の事
分り秋ハ阿加理ハ是ハ稲の赤くむを云ふ此ハ春
と秋との御名有て春久と云ハ無子を以て思ふハ
稲の事と聞由るあり採と云れたるハ實ハ然る説ハ
あつた考

此若年神より以下久久年神六神共ハ稻穀の神小
御在し坐けり然るハ上小大年神御年神ハ御在し坐
す上ハ悉く小其二神ハ是ハ掌り御在し坐る如
何で其上ハハと思ふ事ありハ大年神ハ亦名を
宇迦之御魂神と申奉りて想ての稻穀の御霊の神
小御在し坐り故ハ大ハ冠ありせ奉れりあり其全
体の御功用ハ御年神小御在し坐るを以て真年神ミトシヤシと
ハ称奉れりあり然り雖ハ春夏秋冬の季節ハ隨ひ
生長收藏の政を以て持別り各預り掌りて給ふ神
等の御在し坐りて其全稔トシを得る事難き故ハ

又此の御年神等、各々
神事、御在り、又
又此の御年神等、各々
神事、御在り、又
又此の御年神等、各々
神事、御在り、又

此を以て右の御子神等、成し出させ給へつけし
記傳小云れたる右の説、實小謂れたり然りと雖も
其次小右の六神必しも各々小其名の如き功德生ず
小ハ非ず此神等何れも穀の事小功有し故小稲の上
の事共を以て其御名小分充て負せ奉りし者、此一事
小於て、其味氣無き事共あり彼大倭國者以行事負
名國也、云小然る小此羽山戸神を位神と見る時ハ
此神等を以て稻穀の事を持別て掌ごつせ給ふと云
て叶はず此御子の中、小若年神と御在り坐ふる小本
の如く、御歳神ハ其御伯父小當りせ給へるを伯父
の御年神より甥の若年神小其御徳を兼継せ給ふと
りてハ上より大年神御年神と次、小相承させ給ふ

小符合はず又常小大年神御年神若年神と相連ぬ
申せり、其終ある外、ありの合せ物あるむ、小事
其深て聞おめり、又其羽山戸神の後神小大御食神と
云此似着い、ごりけれハ已小論定めたり、如
く羽山戸神と申すおむ御年神小御在り坐ける然
るを御年神と申すハ唯禾穀神と申す意ふる、羽山
戸神と申す山戸ハ山サ区ク、謂ゆる國の眞秀ある田
地を弘むる處あるを以て其農作を天下小弘めさせ
給ふ、とし、春夏秋冬小持別て生長収藏の事を掌
ごりせ給へむ、爲小后神を專りせ給へ御子神等を令

生給ひけるを以て其御父小係了羽山戸神也傳小
れり小ころ有けぬ其實ハ御年神の御子神等与り古
語拾遺小昔在神代大地主神營田之日略于時御歲神
之子至於其田略下有是なり此を以て天下小在申
る佃田小ハ此御年神の御子神等の御在ハ坐ハ其永
穀を守り御在ハ坐ハ御事なり見奉り知べりり
如此く持別了守給ふ例猶有り此記を以て云む小
此速秋津日子速秋津比賣二神因河海持別而生神
名云々又此大山津見神野推神二神因山野持別而生
神名云々有り更なり又上小大山津見神有て下小
正度山津見神以下代柱の山津見神坐るあど其一神
小ハ御功用の行届き難き程の事小ハ各其持別了
掌る神を生給ふ事小ハ物小体用の差別有かかく
て事の成就ふ者あり然れハ此ハ全く御年神の

御功用在區別了知
給ふ事次くあむ ○大氣都比賣ハ其神夜良比段小
又食物ハ大氣津比賣神ハ大氣都比賣自鼻口及尻種
ニ味物取出而種ニ作具而進時速須佐之男命立伺其
態為穢汚而奉進乃殺其大宜津比賣神故所殺神於身
生物者於頭生蠶於二目生稻種於二耳生粟於鼻生小
豆於陰生麥於尻生大豆故是神産巢日御祖命令取茲
成種と所見たる此ハ四神出生章第十一、一書小所見
たる保食神の御事小ハ其神逐の御事よりハ遙小以
前の御事なるハ保食神大氣都比賣神同神なる由ハ
己小先達の定められたるが如し即此神ハハ豊受

大神の御事ありて右の素交鳴尊の御事御在り坐け
る後小天上小参上りて御在り坐す御事あり其御靈
實の天降りて給へり彼齋庭之穂と共にある事ハ
申すも更なれども瑞珠盟約章第一ノ書日神の三女
神を天降り給へり時の御言小汝三神宜降居道中奉
助天孫而為天孫所奉也と詔給ひて已小顯國小其
三女神の持齋りて御在り坐りて此小御年神の農
作を起させ給ふ小其御神の御力を合せ給はず
ハ全く成就ふ事ハ難くある有けり其大神の御食
を所知食せ御在り坐す御靈を分て顯身の現出させ

給ひて羽山戸神の御妹妹の御契御在り坐りて稻穀を
司り御子神等ハ生出させ給ひて記傳十二三十五十
小其御靈を鎮祭る社の神の現女小化て嫁給ひて
可しと云れたる然る事小御想て此大神の亦
御名を大氣都比賣神と申奉れり此の大氣都比賣其一社小留
坐り御靈小全体の豊受大神小御在り坐さる事
彼火を幾許小分て小全体の火ハ火小燃え別れたる
火ハ火小燃る譬の如くある有けり此神を取給
へり天下小示穀を作道定り人類の火食を為る
始なりける故小此神の御弟小竈神御在り坐り又薪

神さへ小御在し坐ける御事おれ此御年神ハ亦穀
神あり故シ御食神の御力を合せ給はむ事實實其謂謂
れ有ける事共あり然し此神小向日神聖神の申奉
る亦名の渡るせ給へるあと少少縁の由縁小ハ非非ありけ
り又又此御子神等小春夏秋冬小配合たる御若の御在
命の坐ふし必由縁の有る心こ小柳火産靈神と埴山姫
用を持別し給ふ由ある可し信羽山戸神の此神を
取給ひし事代主神の清穢姫命小取給へりし水
理の事小就し御力を合せ給はむ御心ありしと全く
同じ意味あり○若山咋神ハ上ある大年神の御子の
若咋神小對へる若あり然れど上百五十論云々
如く大山咋神を大年神の御子と申す此傳の甚ド

き混れりある者小實ハ其神ハ大己貴神の御子事代
主神小おむ渡るせ給へりける又又此記の傳の如く見
たりむおも大山咋神若山咋神と並ぶる御父子
と云る御兄弟と申す小非御伯父と甥と然相
兼へる由無き事此の御年神若年神の例小於る如く
伊勢神系記小若山咋神比叡弁栢尾神也有り日
吉栢尾の奈神を若山咋神と申す一説有けるあ
可き此小就て羽山戸神の御事と申引りか叶り
ずおむ此混れり上大山咋神の御名混れ入れる
御神の如く己く思違へたり○若年神ハ御祖父大年
神の情進小出たる可き

○日本書紀傳二十六
○二百五十

竊按國神名帳小山雨
 郡初年神有此種
 小神在坐下似著
 百餘三神名
 一二神名
 △飛彈國益田
 郡森村ハ情言
 正月十四日田神
 奉の元詞と云
 小春自來と云
 花米を打落て
 皆入豆うれと祝と
 爲此又若年
 春九ハ若水懸留る
 世同と豊と云ふ成て
 侍らふ云と若年
 春の神の神神
 田と云と有る若
 年ハ正しく初春
 の古又も田舎の
 右言り遺れる
 あり皆又

神御父御年神より景たる若あり偕若年神ハ四時小
 分ちて春を主とし神と聞えたり御妹小若汝那賣神
 御在し坐すハ田苗苗也神の御申申儀申儀申儀其小並ハ
 一若年神と申せば苗代苗代を主と御功用を以て称奉れ
 る御名ある可し然るハ春菜を若菜と云ひ春草を若
 草と云ふ若ふり物の初立生芽初を以て若某と云
 るおれハ永穀小若年と云稱と何とハ無くさる
 其若菜を万葉八十五小從明日者春菜將採跡又ハ
 一後居而春菜採見辛十十六小國栖等之春菜將採十
 七二十小子登賣良哉春菜都麻須等と有かと此等ハ

和加那を義を以て春菜と作るあり又若草を一十七
 小春草之茂生有十一十七小春青草髪爾多久濫と有る
 此青を水府本春小作れりと云り是亦神加久佐小春
 草の字を當たり者あり上件大年御年若年と云ふ
 次第の神名おれハ一年小渡豆る年小こりハ有べりあり
 けれ春小當ると思ふハ如何と思ふ人も有あめど小
 春時小田を壟り苗代と成し湯種を下し其生出る
 おむ一年の稔穀の本ありければ若年神と申して其
 始終小直と御名ある事を明らめ奉る可し祈年奉詞
 月尔御年初將賜登為而と有る初字之此の若年の若
 字を照し見て其意を曉しつ可し者ありし然れ

然万物も二
代實録九卷上
河内國若江郡
春江宿禰と云
有り是又蘇江
と春江と云る
て上件よる
共獨

持磨風三
今春種天
子五月夜
苗の事を
依り三
と見え

〇揖保郡の
紫田部令
と見え

ハ此神を以て春小當事
ハ我が強ク小ハ非不可
〇若汝那賣神ハ汝之女神
云義あり其汝ハ記傳七
二十小田植る農業を
佐と云ふ其苗を佐苗植る
を佐少女植始むるを佐
開植終るを佐登あとい
云か如く儲其業する月
を佐月
云ひ其頃の雨を佐乱と
云あり又和名抄小麥李麥
方寺熱故又之廣語女左
毛と有る此佐と同
〇揖保郡の
紫田部令
と見え

後拾遺集小
守今日月
り為り
小今日月
り為り

田を植給ふ由ありバ汝之女神あり可く若又苗を掌
給ふ神小坐さバ若汝苗女神あり可く次ハ夏之賣神
秋毘賣と稱の生長小因て負せ奉る御名ありを思入
ハ猶後の方ヤ然る可く心儲其苗と云ハ万葉三
五小殖子水葱苗有跡云師枝者指尔家年十一
二島菅未苗在あど有く如く漸小生出たる任
未枝ハ葉と指ぬ程を云あり然ルバ若年神ハ春小在
て苗代小專係り給ひ若汝能那賣神ハ春より夏小直
りて其苗の生立つ時を守給ふ神あり御在り坐け
る記ハ手力男神者坐佐那縣也と有る此ハ伊勢國多
氣郡佐那神社二座是なり或説小其二座ハ一座を

△然万物も三
代實録九卷上
河内國若江郡
有江宿林と云
有り是又春江
と春江と云る
て上件よる
共獨

播磨風土記用郡
の文小夜之神
今取頭大神神
子五月夜即
苗の事也

△此神をいへ春小苗事
△我が強き小非可
○若汝那賣神ハ汝之女神
云義あり其汝ハ記傳七
二十小田植る農業を
佐と云ふ其苗を佐苗植る
を佐少女植始むるを佐
開植終るを佐登あど云
如く儲其業する月を佐月
と云ひ其頃の雨を佐乱と
云ふ又和名抄小麥李麥
秀時熟故以名之漢語抄云
佐毛と有る此佐も同小
株と云はたる佐是あり若
て此佐ハ俗小田を植るを
爲附と云ひ其時節を爲附
時と云ふ類是して孝徳天
皇二年御紀小謂由る農月
又ハ農作月と作るも皆同
小意ふる小合せて思ふ可
き者あり故思ふ小此神若

後拾遺集小御
守今日五月
り急げ左苗
り今月白川
り今月白川
り今月白川

田を植給ふ由あるハ汝之女神あり可
若又苗を掌
給ふ神小坐さハ若汝苗女神あり可
次ハ夏之賣神
秋毘賣土稻の生長小因て負せ奉る御名
あるを思入
ハ猶後の方や然る可
く儲其苗と云ハ万葉三
十四
五小殖子水葱苗有跡云師枝者指
尔京年十一
八下小
二島菅未苗在あど有
如く漸小生出たる任
ホ一
未枝ハ葉ハ指ぬ程を云あり然
れば若年神ハ春小在
て苗代小專係り給ひ若汝能那賣神ハ
春より夏小直
りて其苗の生立つ時を守給ふ神
なる御在り坐け
る記傳小千力男神者坐佐那縣也
有る此ハ伊勢國多
氣郡佐那神社二座是あり或説小其
二座ハ一座也

仁徳天皇十一年御紀
神田而掘溝及于迹驚因
大磐塞之不得穿溝皇后召武内宿祢捧劍鏡令禱祈神
祗而求通溝則當時雷電霹靂裂其磐令通水故時人
号其溝曰裂田溝也

波乃美豆乎末加世互と有る是あり又安閑天皇元年
御紀小此田者天旱難溉水と有る此麻右小同下とあり

新千載集小山田の苗代水と塞別て寛、ある世小
任せしり見と堀川院百首小苗代小細く引する水
引ハ注連の外小漏さくらふと又小山田小檀時捨
て苗代の水の心小任つる哉十五百番歌合小山川を
引せてけりふ小山田の苗代水小花の浪寄とあり有
ハ苗代小云とあり續古今集小山田小引する水の
淡ミこり袖ハ乾つらめ佐苗取として有る是小春
より夏小直る事あり新ハ麻加須と云ハ溝を掘て
今も夏の頃田小水を配分て入る者水を引けり
水を任する由の稱あり記傳ハ神鳳杖小安西郡水卷
神田一町と見申云と云ハ此水と其の地名あり
可けハ此小由無一然ハ此神ハ春より夏小係

枕草子
麻加世と云

此若汝那賣神ありと云るハ名小依てハ推當ハ非
め、又三代實録小貞觀十六年七月二日戊子按伯耆
國正六位上天乃佐奈咩神從五位下と云る事あり
書されたり此天乃佐奈咩神と云ハ若くハ此神ハ
ハ非
り、○弥豆麻岐神ハ水引神ハ苗を植て即水を引
せり苗稼を助給ふ神と聞少神功皇后元年御紀ハ
神田而掘之時引備河水欲潤神田而掘溝及于迹驚因
大磐塞之不得穿溝皇后召武内宿祢捧劍鏡令禱祈神
祗而求通溝則當時雷電霹靂裂其磐令通水故時人
号其溝曰裂田溝也と有る引備河水を私記小奈加、
波乃美豆乎末加世互と有る是あり又安閑天皇元年
御紀小此田者天旱難溉水と有る此麻右小同下とあり

新千載集小山田の苗代水と塞別て寛、ある世小
任せしり見と堀川院百首小苗代小細く引する水
引ハ注連の外小漏さくらふと又小山田小檀時捨
て苗代の水の心小任つる哉十五百番歌合小山川を
引せてけりふ小山田の苗代水小花の浪寄とあり有
ハ苗代小云とあり續古今集小山田小引する水の
淡ミこり袖ハ乾つらめ佐苗取として有る是小春
より夏小直る事あり新ハ麻加須と云ハ溝を掘て
今も夏の頃田小水を配分て入る者水を引けり
水を任する由の稱あり記傳ハ神鳳杖小安西郡水卷
神田一町と見申云と云ハ此水と其の地名あり
可けハ此小由無一然ハ此神ハ春より夏小係

て用水の事を掌る ○夏高津日神夏の義前ハ次ある夏
給ふ神ありけり ○夏高津日神夏の義前ハ次ある夏
之賣神の下云べし備此ハ右の水引神并豆麻岐神のあり小對ひ
て晴田天を主る神の謂を可し 苗稼神の水を引せて以
て植へたる物ありと雖も天津日神の大御光を受奉
らずして全稔ミトシを獲る事難くある有けるを然りして
天日小御光のこふて雨水を得ざれば又成就べからず
ざる自然の理ありければ并豆麻岐神の雨水を掌り
夏高津日神晴天を掌り御在り坐几相共小御力を
合せ給ひ苗稼ナリカを全うし令る神小御在り坐几相共可し
但并豆麻神ハ雨神小非ず雨水ハ降たる水を引す
る神あり夏高津日神ハ日神小坐几相共唯此苗稼小就

て夏日の間を主り次ある秋畷
賣神小致し給ふ義の御名あり ○夏之賣神記傳上四十一ハ夏ハ成
立小し此ハ稻の事ありと云れたる小力を得て考ふ
る小古小人の産業を那理と云ひ那理波比と云ひ農
事より外非ありけるを其那理と云ふ此苗稼を生し作
る事ありける宗神天皇六十二年御紀小詔曰農天ナリヒ下
之大本也民所恃以生也中略其國百姓怠於農事其多開
池溝以寬民業カミナリに見えたるを私記小農を奈利波比と
訓る是あり備夏ハ春種を下したる稻の秋小至りて
熟るむ迄の中間小在り其苗稼ナリの立つ時小ありけれ
ば霖雨小し叶ハば旱魃ハ小て宜しうハす此水旱の事

小豆神生年三十一
一書小豆神生年三十一
皇極天皇元年
紀五月七日
御事
米

小就丁年の豊凶を期する事小向し有ければ甚と大
切ト時ある故小此を字生す神小此夏之賣神ハ
小御在し坐す小あむ有ける 然ハ有れば其夏高
津日神也申奉る夏
之賣神也申す小御名の等しつづし一ハ其
弥豆麻岐神小對して夏日の晴田地小照入りて稲の
能く成立を字せ給ひ一ハ准其夏を經て稲の成立
つ事小依り御名小負し給へるあり一ハ思ふ可く
む 〇秋毘賣神記傳十二 四下 小秋ハ阿加理亦て稲
の赤くむを云ふと云れたるが如く天智天皇三年御
紀小栗太郡人磐城村主殷之新婦床席頭端一宿之間
稻生而穗真且重類而熟と有る熟字を阿加良米理と
訓る是あり万葉二十十二 小安可良我之波等伎波

安禮騰十一 十一 小秋柏潤和川邊十七 三下 小安吉乃
葉乃尔保弊流等伎尔亦 有ハ熟くむを云ふ也又ハ
四下 小秋付者尾花我上尔十四 下 小蟋蟀之鳴音聞者
秋付尔家里又 四下 秋就者水草花乃阿要奴蟹十三 三下
下 小秋付者丹之穂午黄色十五 下 小伊麻欲里波等
伎豆伎奴良之十八 八下 小秋豆氣翠之具禮能雨零十
九 十一 小秋附波芽子開午保布又 十三 秋都氣翠露霜
負而風交毛美知落家里又秋都氣波毛美知遅良久波
亦ハ有ハ季節の秋小移る事を云ふあれ也 秋ハ木
葉の赤くむ時 其語の本より云ふあり然

△後拾遺二鴨
の伏す刈田と立
る稲茎の否と
ハ人抄云ふも有
玉此ハ稲株を
云ふれども其物
同ト云ふ

ねハ此秋毘賣神と申奉るハ夏を経て稲の漸小實あり
て熟るむ時を主少御在し坐す義の御名と聞えたり
後の古今集以下の歌小春の神を佐保姫とて秋の神
を立田姫とて其年節の中小在る事を右の神等小
係て詠るハ佐保ハ平城より東小在り立田ハ平城よ
り西小在るを以て春と秋と小配たる其ハ實事ありね
どと似たる事あり但此小實小其云ふ也給へ
る神の御在し坐して然為給へる事ハ別あり ○久久
年神ハ久久ハ莖小て稲莖の事あり△和名枝木具小莖
和名久木枝之主也△所見たる是あり古事記日代宮
段小那豆岐能多能伊那賀良亦伊那賀良亦云ニ歌
ひ給へる伊那賀良ハ稻莖幹と云事ありハ其同物な
る事知る若て久久年神申す御名ハ冬小當三可
此ハ古事記傳九下粟莖下云云
の莖年ハ云事あり

ハ秋節小熟るにたる稻實を取收めて其稲莖の用を
爲すハ専冬の所為なりハ上件若年神の種を蒔り
始りて全々事の終れるハ粟と藁とを離つ冬の時な
るを以て云あり次ハ久久紀若室葛根神の御名御在し
坐るハ葛藤の神なり此神と並給へるハ此稲莖ハ即
其若室の屋を音く料あり是即久久年神の預り所知
食す御事ありけり記傳小舊事紀小久ニ二字を冬と
作るハ上ハ夏秋と云ふ名ハ次ハ
ハハ必冬ありむと心得て情進小改つる者あり
中ハハ非あり久ニ一字以音と云注有ハハ動ハ
云ハハたハハ實ハ然ハ言あり已ハ冬年と有ハ然ハ可
ハハむと思ひしハハ久久年神と申して其御功用
成る者なり ○久久紀若室葛根神ハ久久紀ハ莖木

あり記傳十二五下久二ハ上ある久ニ能智神の久
 と同トく蓋ホレ紀ハ本あり是ハ室ヲ造ル材木ハ長
 く延タルを云ふ若室ハ書紀ハ宮を美テ日之少宮と
 云ふ少と同トく室を美稱ヘテ若リハ云ふあり
 葛根ハ都那泥と訓ベシ冠辞考ハ古ハ都奴と都那ハ
 都多と通リ一云ハ故ハ都奴佐波布伊波と云ハ蘿這
 石ナリ石網乃又變若及と訓ルハ石網ハ遠別レ
 又遠込テ意ハ續けありと有り諸今思ハ小物を結縛
 網ハ古ハ多ク葛藤ノ類を用以テ故ハ都那也
 云ふあり然レハ本ハ蘿也云と同ホケレハ葛とハ書

△東大寺但馬
 國正統帳ハ番
 面正都去布と
 有り此を以テ
 番繩と番面
 出家子造る上
 用子繩もま
 子知ハ

あり顯宗天皇御紀室壽御詞ハ築立推室葛根云と
 有ハ此ハ同ト又大殿祭詞ハ此乃敷坐大宮地底津磐
 根乃極美下津網根波府虫能禍無久云ハ注ハ古語番
 繩之類謂之網根也見元又彼室壽ハ取結繩葛者此家
 長御壽之堅也あどハ有ハ甚ニ上代の家造ハ何處
 々々繩葛を以テ結固メ一者あり故宮堂を賀ハ
 先右の如ク葛類を云ハハ万葉十九四十ハ天年波母
 五百都網波布万代年國所知年等五百都奈波布又
 續紀十九ハ聖武天皇御母の謚を千尋葛藤高知天宮
 姫尊と奉給ハ是ハ葛藤ハ天宮ハ依ル事あり
 取意
 摘要

但此名根小就云
事有り傳云八
十二ノ與津兼之
下

と云れたるが如く但書紀小宮を美て日之火宮と云
少真木割檜之板戸檜之御門あどり類あゆと云れた
るハ此瑞珠盟約章ふる是後伊特諾尊云て於是登天
親命仍留宅於日之火宮矣心有り云れたるあ可け
れど其ハ甚く別あ意有り傳十五卷五十六下小
唯若室ハ新室と心得て有てあり傳久々年神と此
神とを並せ説べり子細有り其ハ大殿奈詞ハ以天津
御量氏事問之磐根木根立知草能可岐葉言止此
有ハ家宅用小爲建之磐石草木の歸伏奉と始を云あり次
小今奥山乃大峽小峽立留木齋部能齋芥以伐
採氏本末波山神奈氏中間持出來齋銀以齋
柱立氏皇御孫之命乃天之御翳日之御翳止造奉仕礼

瑞之御殿汝屋船命云と有り磐石草木共小悉く人
の有と成て地盤を掘り柱を立草を覆ひ蔭と爲小
是即御殿あり御殿直小屋船命の御正体あり由あり
此乃敷坐大宮地底津磐根乃極美下津網根云と掘堅
多柱桁梁戸牖乃錯比動鳴事無又引結幣葛目能緩比
取音計草乃噪無云とハ其屋船命の御体と齋奉ら
御殿の磐石草木小就て各其兼べり災異の有を所過
るあり次小屋船久久還命是木屋船豐宇氣毘賣命是登
福靈也御名波奉稱氏と有ハ上小屋船命と申せり神
の正身か分て木神と福神との御名を擧げたる小其

木靈神の主り給ふ所ハ柱桁梁戸牖ノ類是あり稻靈
神ノ預り知給ふ物ハ宅内を結縛る葛根ハ屋上を覆
覆ふ草葉を申せるあり又此七然り久久年ハ屋を
昔々草葉ノ神ハ御在し坐り其主ハ爲る所ハ稻葉ハ
り又久久紀若室葛根神ハ久久紀ハ莖木あり若室ハ
新室あり此ハ其若室を結固むる葛藤ノ事を幸給ふ
意ノ御名ふる事其御祖ハ大氣都比賣神ハ渡りせ
給へるを以り思ふ可き者あり但此大殿奈詞ハ其ハ幽深ヲ致
有テ容易ク取惣ハ中ニ云解べり其ハ今取惣
ヲ云ノモあり右ハ二神ノ御事を合せ思ハハ大ハ意
む者あり○併ハ神ハ右件ハ云るハ如ク若山昨

神ハ一ハ大山昨神ハ對入る御名ハ一ハ其御父子聞
えて此ノ例ハハ是えハハ除さス并せて七神あり
者あり

出雲風土記曰意宇郡大草御郡家南西二里一百廿步須佐
乃乎命御子青幡佐久佐日古命坐故云大草
又大原郡高麻山郡家正北一十里二百步高一百丈周
五里北方有檉椿等類東南西三方並野古老傳云神須
佐能衰命御子青幡佐草拈命此山上麻蔭初故云高麻
山即此山上坐其御魂也○青幡佐久佐日古命其御母
詳ありずと雖も右小擧る大原郡高麻山を郡家正北

一十里二百歩と有る小考合する小同郡屋代郷郡家正
北一十里一百一十六歩所造天下大神之祭五射處故
云矢代神龜三年改字屋代即有正倉と有る此地と僅小八十四
歩の差あり然れば右の高麻山ハ屋代郷の中なる事
著明き者なり若く同郡須我山又御室山を郡家東北
一十九里一百八十歩と有る此ハ此正書小謂由と出
雲之清地と云ふ是ハ素戔嗚大神の奇稻田姬命を
聚給ふとしり宮を建て御在し坐ける地ハ高麻山
とハ其間合甚近なるに有ければ紀記ハ傳漏され
振れども此青幡佐久佐日古命ハ一ハ即大國主素戔嗚大神

分業三寸小如麻幡
能く有る麻幡の言
あり此麻幡の字
佐久佐日古命の
傍に

の御同胞小御在し坐べし御事を曉る可くある有け
る今大社の上官と云ふ佐草氏と云ふ有る相傳ハ此
青幡佐久佐日古命の子孫なりと云ふ然ハ有る
や又ハ其地より出たる氏なり青幡ハ字ハ佐久
故ハ慢り小其并を用ふる少ハ
佐ハ麻草なり此續ける意ハ青幡ハ麻布を染ずるか
る用いたりけし事古語拾遺ハ長白羽神種麻以為
青和幣と有る以り麻ハ本色青なるを明らめり知ハ
ハ其より種々の色幡出来れり故ハ甚古くより色
小染てし用たりけり常陸風土記ハ信太郡黒坂命
征哥陸奥蝦夷事ハ凱旋及多歌之郡角枯之山黒坂命
過病身故爰改角枯号黒前山黒坂命之輪輜車發自黒

前之山到日高之國葬具儀赤旗青幡交雜飄颺雲飛虹
張瑩野耀營時人謂之幡岳國後世言便祢信太國也
有赤旗青幡相並べ云云是より方葉二二十一二十小青旗乃
木旗能上予と續けたるハ青色の濃き幡と云事小
其漆だ濃色小係たるより十三二十一二十小隱來之長谷
之山青幡之志坂山者と有を冠辭考小青旗の襲と續
けたる小四と云れたるハ如く欽明天皇十四年御紀
小通夜固守凌晨起見曠野之中霞如青山一旌旗充満と
見えたる此ハ他國の事小有れども旌旗の充満め
る如青山の巒たるも青旗を襲ひ立たる狀ありけ

り此を以てハ神の御名も負せ奉る計り上代ハ
其青幡の世小名高りありを曉る可くあむ有ける
ハ青幡の幡ハ借字小ハ畑と云ふハ有けむ青山又
ハ青野又ハ青海又ハ青田と云事古今の常ハ此
此ハ青畑と云て麻草の豐饒小繁茂れる形狀を以て
云小ハ非るハ麻を蒔生したる畑ハ實小青畑と云
可ハ狀ハ非るハ此小因ハ思ハ佐久佐ハ麻草の
略あり抑麻ハ一も謂ゆる青和幣の事ハ一ハ彼天石
窟隱の御時小出來初り其元天上小成れる物と
を寶鏡開始章第二一書素戔嗚尊の袂具小以唾爲白
和幣以漬爲青和幣と有る爲字ハ化字の義ハ一其
大神の御漬より成出たりける狀あり由己小傳十

九十二百九 二十 一百九 十丁 小云るが如し然る小此大神の
 御子五十猛命天上より多小樹種を將て天降り御在
 し坐けり麻種し其中小五つを此音備佐久佐日古命命也頭國小して蔭
 生し殖始させ給へるが故小然る御名小負給ひける
 亦あけ右小引る風土記小大原郡高麻山中略古老傳云
 神須佐能袁命御子青幡佐草咄命是山上麻蔭初故云
 高麻山即此山坐其御魂也所見たる此小麻蔭初
 也有小了全く頭國小の初なる事著明の者あり備
 此大原郡音字郡其近く相連接ける地あり其始
 此高麻山小御在し坐て麻蔭の功業を初させ給ひ後

小大草郷小移る御在し坐て萬世の常宮ト給
 入る者ありめり上小舉たる風土記小青幡佐久佐日古
 命坐故云大草と有る文故云佐草と有る所を
 ち如此有る麻しも畑小殖る草の中し最高
 高く大さくし林め如く立延る物あり故小大草と
 同し稱云る者あり可し右小所見たる高麻山の名有り
 又駿河風土記小豊麻と云号有るも思准るへ曉る
 可く亦し風土記小意宇郡佐久佐社神名式小佐久佐
 神社と有る是なり斯れは大草と云る麻の異名め如
 小豊は共小例の稱しあり者ありけり高麻豊麻は高
 云ひ豊は枝葉の繁茂れるを云言ありけり駿河風土

記小富士郡豐麻神社二坐所祭大己貴命與少彥名命也
也有此青幡佐久佐日古命の麻を蔭初給へる後
小此二神の國土經營の御時をむすめさせ給へり
く世小弘行足ひたす事小神武天皇の大御代小太
玉命の御功を由り古語拾遺小所見た
る是

同記曰島根郡山口郷郡家正南四里二百九十八步須佐能
烏命御子都留支日子命詔吾敷坐山口處在詔而故山口頁
給

都留支日子命所見無下故強し思ふ小此第中一書小
素戔嗚尊乃以天繩斬之劍斬彼大蛇時斬蛇尾而又欽
即劈而視之尾中有一神劍素戔嗚尊曰此不可以吾私

用也乃遣五世孫天之菅根神止奉於天此今所謂草薙
劍無之有之此天之菅根神の御事あり可し其八傳二
十三百八十二丁 二十四三十一丁 小委一丁 辨入たるが如
く神名秘抄小此神を五十猛命の一名と爲るハ謂れ
有之事小實小同神御在十坐けり其ハ天之菅
根神也申すハ天之殖木根神申す義又此を古事記
小天之久衣神也作ハ天之殖木主神也申す義あり
五十猛命の大八洲内悉小樹種を播殖させ御在十坐
青山と成し給へり御叩用小保儿子御名あり事灼
然者ありり又此小吾敷坐山口處在詔と有れ已

命の樹種を殖生して青山に成り給ふ時、御言ふ
其山、同記小布自根美高山郡家正南七里二百一十
歩高二百七十丈周一十里有、有之是なり、次小女岳
山郡家正南二百廿歩、有之其布自根美高山を男岳
山こし、其小相對へ云、祢此御事、故、説有り、傳、字、評、小云り聞由、偕此都留支日子命
に申す、彼草薙劍を天神の御許、高天原小上奉り
せ給ふ御使として仕奉りせ給へる行事、小依り、眞給
へる御名、若くは御父大神小復命、給へる始
此國小天降りせ御在り坐り著給へる、此小其
都留支日子命の御名、傳り此者、小不有之

神名式小島根郡布自伎美神社多氣神社坐る、其小此
神を祀れる小、故思ふ小布自伎美神社、其山口
御在り坐り又式小御在り坐り多氣神社、山上小
社記、小五十猛命曰、伊賀多氣大明神、有之思合す
可い
同記曰、島根郡方結郷郡家正東二十里八十歩、須佐能烏命
御子國忍別命詔、吾敷坐地者、國形宜者、故云方結
國忍別命の御祖、今考ふ所無し、忍別の例、神武天
皇戊午年御紀、小是後天皇欲省吉野之地、乃從菟田穿
邑親、變輕兵巡幸焉、略更少進、亦有尾而披磐石而出者
天皇問之曰、汝何人、對曰、臣是磐排別之子、排別此云、
鼓時和句、

合舊訓小從ひて
一神名式小和泉國
大島郡神別神社
有八神多可
下二百七十二小云
を考合す可

有る此を古事記小即入其山之亦遇生尾人此人押
分巖而出來尔問汝者誰也答曰僕者國神名謂石押分
之子也有古例小依りて此の思別れ其行事小因れり
御名ふるを曉し可し但巖かどころ小押分と云べり
所由有る者なり下小云を見べし然れども思別れ公於
志和氣也故此國思別命なり御父素戔嗚大神の赤
御名八束水臣津野命の國引坐る御功業を輔相け奉
りせ給へり御行事小依りて御名ふる可く所思えり
乃風土記國引文小所以號意字者國引坐八束水臣津
野命詔八雲立出雲國者校布之稚國在哉初國小所作

故將作縫詔而榜衾志羅紀乃三塔兵國之餘有耶見
者國之餘有詔而壹々曾鉏所取而大魚之支太衝別而
波多須ニ支穗振別而三身之細打桂而霜黑葛間ニ耶
ニ尔河船之毛ニ會曾ニ呂ニ尔國來ニ來ニ引來縫國者
自去豆打絶而八百米支豆支之御埼也以下同之所見
文略之
たる此國の餘有る地を屠別させ給へり御功小依
て國思別命とハ御名小負坐るあまふもや有へり
む若て此神の屠別させ給へり國を御父大神の國引
小引給へり故を以下國引坐神とハ稱申せり小御
功業の相別れ給へり狀此小因て知るれたり故其國
引の始

小其取べき國の餘有る處を裁断し層別給へ^形御政
ハ甚て難事^ハ事^ハ容易く物爲さ^ハ七^ハ御在^ハ坐^ハける
在^ハ坐^ハざり^ハけり^ハ若^ハて此神の吾敷坐地者國形宜者
故云方結^ハ有^ハ其敷坐地^ハ云^ハ嶋根郡^ハ地方^ハ云
あり國引文小亦北門良波乃國^ハ國之餘有^ハ詔耶見者
國之餘有^ハ詔而略^ハ自^ハ千深打絶^ハ而^ハ聞^ハ是^ハ之^ハ國^ハ是^ハ也亦高志
之都^ハ乃^ハ三^ハ埜^ハ英國之餘有^ハ耶見者國之餘有^ハ詔而略^ハ國
二來^ハ引^ハ來^ハ縫^ハ國者^ハ三^ハ穗^ハ之^ハ埜^ハ也^ハ有^ハ千^ハ深^ハ河^ハ同^ハ記^ハ小
千深^ハ郡^ハ家^ハ正^ハ東^ハ一^ハ十^ハ里^ハ二^ハ百^ハ六^ハ十^ハ四^ハ步^ハ有^ハ方^ハ結^ハ郷^ハ
より^ハ一^ハ十^ハ里^ハ正^ハ西^ハ小^ハ在^ハ少^ハ三^ハ穗^ハ美^ハ保^ハ郷^ハ郡^ハ家^ハ正^ハ東^ハ十^ハ七
里^ハ一^ハ百^ハ六^ハ十^ハ四^ハ步^ハ見^ハえ^ハて^ハ方^ハ結^ハ郷^ハより^ハ九^ハ七^ハ里^ハ許^ハ正

東小在^ハ共^ハ小^ハ島^ハ根^ハ郡^ハの内^ハあり^ハ又^ハ此^ハ郡^ハ名^ハの^ハ事^ハを^ハ所^ハ以^ハ
號^ハ島^ハ根^ハ者^ハ國^ハ引^ハ坐^ハ八^ハ束^ハ水^ハ臣^ハ津^ハ野^ハ命^ハ之^ハ詔^ハ而^ハ負^ハ給^ハ名^ハ故^ハ云
島^ハ根^ハ之^ハ有^ハ御^ハ父^ハ大^ハ神^ハの^ハ號^ハつ^ハせ^ハ給^ハへ^ハる^ハ地^ハあり^ハけ^ハれ^ハば
其^ハ共^ハ小^ハ引^ハ寄^ハせ^ハて^ハ縫^ハ給^ハへ^ハる^ハ此^ハ地^ハ小^ハ御^ハ在^ハ坐^ハ吾^ハ敷^ハ坐
地^ハハ^ハ詔^ハ給^ハへ^ハる^ハあり^ハ若^ハて^ハ國^ハ形^ハ宜^ハ者^ハの^ハ御^ハ言^ハハ^ハ其^ハ
國^ハ引^ハ小^ハ引^ハて^ハ國^ハ形^ハと^ハ成^ハ給^ハひ^ハ其^ハ地^ハの^ハ鎮^ハめ^ハり^ハ御^ハ在^ハ
坐^ハす^ハ此^ハ神^ハの^ハ詔^ハ給^ハへ^ハる^ハ小^ハ嶋^ハ根^ハ足^ハハ^ハ給^ハへ^ハる^ハ國^ハの^ハ
出^ハ來^ハ上^ハり^ハを^ハ稱^ハ讚^ハせ^ハ給^ハへ^ハる^ハ小^ハ嶋^ハ根^ハ其^ハ七^ハ大^ハ小^ハ所^ハ由^ハ
有^ハる^ハ御^ハ事^ハ共^ハ小^ハあり^ハ有^ハける^ハ風^ハ土^ハ記^ハ不^ハ在^ハ神^ハ祇^ハ官^ハ有^ハる^ハ
中^ハ小^ハ方^ハ結^ハ社^ハ有^ハり^ハ此^ハ御^ハ神^ハ小^ハ渡^ハり^ハ給^ハひ^ハけ^ハり^ハ此^ハ備

新^ハ一^ハ方^ハ結^ハ加^ハ多^ハ由^ハ
比^ハ訓^ハ一^ハ國^ハ形^ハ宜^ハ一^ハ
大^ハ多^ハす^ハ小^ハ嶋^ハ根^ハの^ハ形^ハ
中^ハ小^ハ嶋^ハ根^ハの^ハ形^ハ給^ハへ^ハる^ハ
而^ハ又^ハ引^ハ來^ハ縫^ハ國^ハ者^ハ
有^ハる^ハ縫^ハ字^ハの^ハ義^ハ小^ハ嶋^ハ根^ハ
の^ハ所^ハあり^ハ

の國形宜者の宜字不見合せて方結を加多延に訓
は是に似て非なる可一國形の宜しき不依り然訓
ありば全く唯小形善に云義にありたり此然
らず國形宜者に詔へり堅く結結へるをこり詔
ふ可事ありけり其上結字を宜しき義不用ひた
例他に見當らざれば從ひ難し万葉二十卷小伊射子
等毛多波和射奈世曾天地能加多未之久亦曾夜麻登
之麻祢波に有る小同トく此又堅立給へる事小就
る由ありける
者あり有るや

同記曰秋鹿郡惠曇郷郡系東北凡里卅步須佐能乎命御子

磐坂日子命國巡行坐時至坐此處而詔此處者國稚美好有

國形如畫鞠哉吾之宮者此是處造事者詔故云惠伴神龜三

惠曇

磐坂日子命の御祖先此詳ありず偕此御名小頁也

磐坂の地名小見非ず又字の如く小見山坂の磐石を
知す神ありりと思ふ小其然らず又天孫降臨章第
二一書小謂由天津磐坂境小因似多神名も非なる
ゆ故此小國巡行坐し有る力を得て考ふ小此小御父
素戔嗚大神と共小天下を周巡りし御在り坐て國土
を經營しし御在り坐る神ありあり渡り世給へりけ
り其ハ甚之上代の神名小唯何と無り地名を以て頁
せ奉るハ無り事小彼大倭國者以行事頁名國奈と
詔給へりし大御言の如く其地名を頁せ奉る中も
其行事をふし兼て稱奉る事常々定格小り有けれり

此も其如く見奉り説べりあり然れども此磐坂日子命
 一、素戔嗚大神の高天原より天降り御在り坐り
 着給へり始り頃ハ一、山川原野の差別も何とも無
 一、唯一面の島山あり有り一、平坦の地あり且
 一、開け初たりけり山岳の如き一、唯も磐石を以
 一、圍めりとのふり一、草木あとの生立へり空閑也非
 一、りけむを此神の磐石を底より土砂を表より形
 一、如く物爲り給へりけり五十猛命の樹種を殖生
 一、し青山に成り給へりけり所思われば其青山
 一、成り可り地盤を善成り給へり御在り坐ける一、因り磐石

此の者なり其國推
 語有心を得て思
 可者あり

坂日子命に申す御名ハ御在り坐る可り
 皇神能敷坐島能八十島者谷蟻能狭度極鹽沫能留限
 狭國者廣久峻國者平久に有る峻國者平久の語ハ心
 合す可り一、國巡行坐ハ右ハ云るが如く磐坂を平坦
 一、して山岳の形勢を善成り給へり一、巡坐るあり可
 一、此處者國推美好と有る國推ハ傳四一、註せる
 神世七代章第二一、書ハ古國推地推之時に有る推也
 同ハ初一、意あり其ハ國引文ハ所見たる如く
 島根秋鹿楯縫出雲の四郡ハ一、日本ハ無りける地
 一、るを素戔嗚大神の亦御名八束水臣津野命の處との
 國餘を割取りて引來縫給へり國ありければ當音ハ

未^初惟^初しき事あり有けむく山ふども甚疑^初り
るざめれば況て水の流れる利うずすし處^初の溜
れるハ然あがら^初畫る鞆の如くありつゝむを見行ハ
御在し坐て有^初國形如^初畫鞆哉^初ハ詔給えり者ハ
可し己小傳十五^初百^初十七^初四十^初五^初下^初小注せるが如く
瑞珠盟約章第二一書小堀天真名并三處^初有^初彼天
安河の水の涸れる處を三處小堀たるハ謂由る巴
字の形なるを鞆^初ハ畫る事ある故小畫鞆ハ云
者あり風土記小惠墨郡家東北九里廿歩^初有^初本
地^初其地理を考る小神名火山郡家東北九里廿歩

高二百廿丈周^初一十四里^初略^初又足日山郡家東北七里高
一百七十丈周一十里二百歩^初所見たれば惠墨郷ハ
神名火山と足日山と小挾れるハ凹き地と聞申若て
長江川源出郡家東北九里廿歩神名火山南流入于海
其^初有^初れハ其郷中を流る^初水^初なり次小惠墨地^初本字惠
墨^初字^初波岡六里^初略^初有^初之^初並^初々^初ありぬ大池あり其郷
中小湛れる水あり事云々更なり右ハ此記を奉れり
天平の頃の地理ありが況て躰小久遠^初あり神代中
て未國惟^初云ける間ハ其池ハ橋大小在て長江川
の委蛇^初らふ状あり實小畫ける鞆の如く有けむ事何

ハ此を疑ハ七神名式小秋鹿郡惠曇神社所見たる
是なりハ鞆ハ登毛ハ清音ハ事云ハ更ハ右ハ惠曇神
社を風土記ハ小惠曇毛社ハ有を以て知べし又其不
在神祇官ハ云中小惠曇海邊社同海邊社ハ有ハ此別
社ハ非ハなり

又同記曰同郡多太郷郡家正北五里一百十歩須佐能乎命御子
衡杵等乎而留比古命國巡行坐時至坐此處而詔吾御心照
明正真成吾者此處靜將坐詔而靜坐故云多太

此ハ秋鹿郡ハ右小舉ハ惠曇郷ハ古事ハ小並出た
り備衡杵等乎而流比古命ハ御祖此ハ今考ハ所無
衡杵ハ和泉風土記ハ衡杵ハ作此ハ都伎富許ハ訓ハ

さあり若て此ハ等乎ハ云む料ハ置ハ發語ハ神
の御名ハ古事記天御饗食段ハ打竹之登遠ハ登遠
ニ迹ハ有ハ打ハ折ハ字ハ可ハ事記傳ハ説ハ如ハ又
万葉二ハ十ハ小奈用竹乃騰遠依子等三ハ十ハ小名湯竹
乃十縁皇子ハ有ハ折竹又名湯竹ハ撓ハ義ハ登
遠ハ續ハけるハ小同ハトハ杖ハ以てハ衡ハ時ハ其鋒ハ
重ハ柄ハ輕ハこの權衡ハ依てハ自然ハ小撓ハむ物ハ
故ハ都伎富許ハなり若て此ハ姓氏錄ハ小富ハ已都
武ハ小甲斐國八代郡杵衡神社ハ云ハ見ハえたるハ其ハをハ倒
小爲ハ云ハなり但杵字ハ伎ハ祚ハルハトハ杖ハ字ハ誤
ルハ事論ハ無ハルハ等乎而留比古命ハ和泉風土記ハ有

伊豆國賀茂郡多太郷
許都久和系命神社

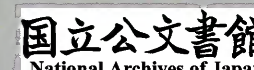
と共小同いふを等字ハ右小云々如く鏡の義と見て
し而留の二字更ハ訓べりぐらあり而字 又音
ふハ志流あり又御紀ハ述の假字ハ被用ハル
ハ述流あり又而字の訓ハ依る時ハ兵流ありと雖も
等字志流ハてハ等字述流ハてハ等字兵流ハてハ語
を成心行さるるなり故思ハ風土記ハ而字ハ假字ハ用
ひたる例外ハ見當らるれが若くハ而字ハ與ハ草書
リハ而の草体ハ相似タルハ其ハハ寫誤ハ者ハ
て等字與留ハハ有つるハ右小云々万葉ハ騰遠
依子等者又十縁皇子あど云ハ名湯竹ノ係タルハ

云ハ更ハ其七二十ハ小治村十依海ハ詠ハ味
鴨ハ多く群ガリ寄ル事ハ等字與留ハ云々然レ
ハ此御名ハ御父大神ハ國引ハ御功業ハ扶助ハ奉ル
セ給ハ神ハ御在ハ坐テ共ハ其御徳ハ成ハ給ハル
義ハ御名ハ御在ハ坐ルハ然レハ言正本ハ而字
を行ヒテ無識ハ事銜杵ハ都伎ハ訓ハ甚ハ古命ハ作ル
ハ等字留ハ通徹ハ義ハ但而字ハ志ハ訓ハ時ハ等字
志流ハ然レ時ハ等字ハ數ハ十ハ同トクハ是
知ハ義ハ年ハ中行事秘抄ハ載ル鎮魂歌ハ八九十ハ
弥夜許ハ能多理ハ有ル多理ハ數ハ十ハ當ルハ御

父大神と共小國土の事を足知る謂あり然る時ハ衛
 梓ハ全ク等字ハ係レ發語ニ成アリ（ニハカ）又而字ヲ述レ訓
 ム時ハ等字述流ルキ等字ハ攬あり述流ハ瓊有あり
 梓鋒（ハ）の攬ム計リ小瓊を著たる謂ルケ彼天瓊也の
 狀是あり此ハケハ唯小瓊を著たる梓を主り給ふ神
 の如くハ此ハ是ハケハ國土經營の表物ありハハハ
 其御功ハ於テハ右ハ例ハ同ハ三ハハ而字ハ氏ハ訓
 小讀テ等字ハ流あり等字ハ足あり流ハ此ハ吾御
コノテリヤアヲシクナリマ心照明正眞成ト詔給ヘテ小等ハ御心ハ朗（ハカ）ル（ハカ）ハ
 照足ハ一ハ坐る謂あり可ハハ如此ハ三義ハ説ク事ハ

行トハ猶始ハ註ク等字與留の方ハ勝りたる可ハハ
 古ハ後人ハ定メ床ハてハハ風上記ハ秋鹿郡不在
 神祇官ト有ハ中ハ多太社同多太社ト有ハ此御父子
 二柱ヲ祀ルハハハ其外神名式小大和國喜上郡多太社攝津國河邊郡多太神社
 近江國伊香郡多太神社若狹國遠敷郡多太神社加賀
 國能美郡多太神社有ハ此神ヲ祀ルハハハ（但馬）
 國七美郡多太神社有テ次ハ小代神社二座御在ハ生
 名ハ小代字之呂（ハカ）故有ハハハ和名抄郷
 有ハ是ありハハ（ハカ）○和泉風土記ハ大鳥郡古老傳云昔
 素交鳴尊御子衛梓等字而留比古命巡行此國詔吾御
 體裏坐詔而靜坐故云於登利今謂大鳥者記也ハハ事
 有ハ巡行此國ト云ハ右ハ出雲風土記ハハ國巡行坐

傳ニハ卷六十九ノ
 神ト見ルハハハ
 有ハハハハハハ
 有ハハハハハハ
 有ハハハハハハ
 有ハハハハハハ



傳云云
極神極神在在坐坐下下五五位位下下大大鳥鳥社社幣幣祈祈雨雨也也
續續後後紀紀小小弘弘仁仁十十四四年年秋秋七七月月丙丙辰辰奉奉和和泉泉

時云云此神天下を遍く往巡りせ
御在御在坐坐けりあり然れども御父大神國土を經營し御在御在坐坐
むより幸行る國巡りあり可き事右註るが如
く決り者あり此吾御體裏坐し詔給へる御言を以て
其御功業小深く遠く苦勞イシツせ給へる御事を見奉り
知べきあり斯る御功績の御在御在坐坐す神小の渡りて
給へりども紀記小漏給へる小依りて世小知り給
へる遺憶事なりけれ神名式小和泉國大鳥
郡大鳥神社名神大月大鳥神社報二社並び坐す小
先あるを一宮記小日本武尊小書し後あるを社説小

吉備穴戸媛と云は然も有べし事ありども和泉志小
大鳥大明神在大鳥村大鳥社流記云大鳥大神宮五社
と云れば其五社の中小一社小神代より此小鎮り御
在在坐坐す衡梓等字而留比古命小御在御在坐坐する可し
然所思る由後紀小弘仁十四年秋七月丙辰奉和泉
國大鳥社幣祈雨也續後紀小長和九年十月辛酉朔乙
巳奉授和泉國從五位下大鳥神從五位上三代實錄小
貞觀元年正月十七日甲申奉授和泉國正五位下大鳥
神從四位下同九月八日庚申和泉國大鳥神遣使奉幣
為風雨祈焉同三年七月二日甲戌授和泉國從四位下

勲八等大鳥神從三位之所見たる此中小一ハ祈雨一
風雨祈の御爲あり小臨時祭式祈雨神祭八十五座の
中小大鳥社一座和泉國收給へる日本武尊
小テハ似著ハシラるるハ何レハ一ハ國土經營
の神ありすハ得有べしぬを以有り且式小載ル
美多弥神社ハ出雲國出雲郡美談神社有り押別神
社ハ上二百六十三丁小載る出雲風土記小島根郡方結郷略
須佐能乎命御子國忍別命詔吾敷坐地者國形宜者故
云方結と有と同神と聞え又生國神社鉾ハ大國魂命
小渡りせ給ふ事本よりふれハ出雲の神等ハ大小

由有る事共あり猶神名式小和泉郡山直神社有を風
土記小山直郷有神号直明神大足彦
忍代別天皇御子所祭神須佐能雄尊也有ハ更あり
上七十六丁小註セラカク大年神の御親族の神等
も其國小敷處鎮り御在ハ坐る
おど女縁の所由ハ非るあり
同記曰楯縫郡沼田郷郡家正西八里六十步字乃治比古命
以尔多水而御乾飯尔多尔食坐詔而尔多負給之然則可謂
尔多郷與今人猶云努多耳神龜三年
改字沼田
故此字乃治比古命ハ一ハ決ク素戔嗚尊の御子ハ一
御祖ハ奇稻田姬命ハ御在ハ坐ベテ事已ハ傳二十
三二百三十一丁
三百六丁小奈一ハ注ラカ如ハ其ハ同記ハ大原
郡海潮郷郡家正東一十六里卅三歩古老傳云字能治

此古命恨御祖須我祢命而北方出雲海潮押上漂御祖之神此海潮至故云海鹽神龜三年改字海潮即東北須我小川之湯淵村川中温泉不用同毛間村川中温泉出不用所見たる須我祢命須我幼命申す義聞元其須我此正書小素交鳴尊略中然後行覓將婚之處遂到出雲之清地焉乃言曰吾心清之之於彼處建宮之有之此を古事記小須賀宮之有之其宮大后奇稻田姬命之爲小建之也給ふ處あり其父母二神小福田宮主須賀之八耳神之云号を頁せ給へる程の事あり有けり其地名小依て須我祢命申す何れ小神御在

一坐む奇稻田姬命小渡りせ給ふ可事申すも更か少故此姫神を御祖と爲す時ハ其御父ハ素交鳴大神不丁御在し坐す事著明き者あり故其須賀宮の清地ハ風土記小須我山郡家東北一十九里一百八十歩有檜粉と有之因即此海潮郷の中不丁僅小二里許の路程あるを思ふ可き者あり○字乃治此古命名義ハ海路あり可く侍るむ右小引る海潮郷の文小北方出雲海潮押上漂御祖之神と有ハ一時御母神を恨み奉る事御在し坐す物爲給へる事あり斯る山中ハ海潮を押上せて漂ハす云事ハ陸地を主る神の出来まし事ありけれ然るも思定たりける然るハ傳ハ

十十百
 十十百
 小注セラケ如ク此素戔嗚大神の荒魂
 ハ一ノ海童神小御在ニ坐セバ其御靈を兼テ生坐シ
 ける御子ありけむ故小其荒魂の進ニ依テハ御母神
 をす々小寤め奉るむとい爲させ給ひけるあり可ク
 此狀海宮遊行章第四一書小故弟出潮溢瓊則潮大
 溢而兄自没溺略中兄改前言曰吾是汝兄如何爲人兄而
 事弟耶弟時出潮溢瓊兄見之走登高山則潮亦没山兄
 縁高樹則潮亦没樹略下有ハ事ハ違ヒテ有レドモ其
 狀の似たる事あるハ此字乃治比古命ハ其海神の御
 靈を得テ海路を主りなご爲給ふ神小御在ニ坐ふる

此の御子
 中乃治比古命ハ一ノ其

可一但海上を守給ふ住吉神ふごハ同トあり思
 混ふ可クす諸矣己貴命ハ其争ひ給ひハ十
 神の中の一柱小御在ニ坐テ後小大己貴命小歸順ヒ
 給ひけむ所思ハ所由有レバ其ハ甚可畏事
 小一有けれハ御乾飯ハ美加礼比ニ訓テ一光奉天皇
 此ハ注さず
 七年御紀ハ糲字を加礼比ニ訓リ和名抄飯餅類ハ
 糲和名保之以比較飯也ニ有テ次小餉訓加礼比於久
 留俗云加礼比ニ書シテ保之以比ニ加礼比ニ字を別
 たりト共小乾子ハハ飯の傳ハレハ同事トあり
 尔多尔食坐の尔多ハ水分神祈年祭詞小朝御食夕御
 食能加年加比ハ長御食能遠御食登赤丹穗ハ聞食ニ
 有を始ミテ九ノ祝詞ハ多く赤丹穗ニ云々丹小

同トク食物を聞食して御面の照明は坐す由以言
心聞申但同記伊多郡の所小所以號仁多者所造天下
大神大穴持命詔此國者非大非小川上者木穗刺加布
川下者河志波遠度之是者尔多志根小國在詔故云尔
多と有る尔多志根と同語と聞ゆる此者神武天皇
三十有一年御紀小廻望國狀曰妍哉乎國之獲兵也有
る下小妍哉此云鞅奈珥夜と注させ給へると同ト義
の言小一万葉一ト小何^{ウミクミ}於國曾と詠せ給へる意味亦
かければ赤丹穗と同ト言小出るがゆゆ多尔食坐
小美^ミ小聞食一坐と云義小有^ハ心^ハ皇^ノ御^ノ記

空^ク留^リ壽^シ御^ノ詞^ハ小美^ミ飲^ム喫^ム哉^カ此^ニ云^フ于^テ魔^マ羅^ラ作^ル鳥^ト野^ノ羅^ノ甫^ノ屢^ノ柯^ノ
傳^ハ也^ト有^ル考^ヘ合^ス可^ク一^ト妍^カ哉^カ可^ク美^シ言^ハ相^シ近^キ證^トハ
八^ノ洲^ノ起^ル元^ノ章^ハ小^ノ意^ハ哉^カ遇^ヘ可^ク美^シ少^ク男^ト焉^ト有^ル其^ノ第^一一^ノ書^ハ
小^ノ妍^カ哉^カ可^ク愛^シ少^ク男^ト歟^ト有^ル此^ノ等^ヲを^レ見^ル合^セて^レ曉^ル少^ク可^ク
同^ト記^ハ曰^ク神^ノ門^ノ郡^ノ八^ノ野^ノ鄉^ノ郡^ノ家^ノ正^ニ北^ニ三^ノ里^ノ二^ノ百^ノ一^ノ十^ノ步^ノ須^ノ佐^ノ能^ノ衰^ノ
命^ハ御^ノ子^ト八^ノ野^ノ若^ク日^ノ女^ノ命^ト坐^シ之^ル尔^ノ時^ニ所^レ造^ル天^ノ下^ノ大^ノ神^ト大^ノ穴^ノ持^ノ命^ト將^シ
聚^リ給^フ爲^シ而^シ令^テ造^ル屋^ヲ給^フ故^ニ云^フ八^ノ野^ノ

此八野若日女命と申奉る八野公地名と成て若日女
命と申奉るあむ其御名ある小く寶鏡開始章第一一
書小謂ゆる稚日女尊小御在し坐て即三女神の御事
小渡り也給ふ可く由己小傳十五四百二十八小亦一

八野^ノ事^ハ小^ノ九
亦^ハ天^ノ皇^ノ二^ノ年^ノ御^ノ紀^ハ
六^ノ母^ノ此^ノ云^フ親^ノ身^ト者^ト小^ノ
同^トト^ク後^ノ小^ノ

く註し奉るが如し者又此小令造屋給故云八野に有
る八野其屋ハ謂ゆる毒屋の事小一り二柱御祖神の
八尋殿に申すも更あり素戔嗚大神の奇稻田姬命ハ
婚給ふ料の須賀宮を此例ある事已小傳二十三
十小注せらるが如し若て此ハ古事記ハ大國主神亦
娶神屋楯比賣命生子事代主神と有る地神本紀ハ
次娶坐邊津宮高津姫神生一男一女兒都味齒八重事
代主神略と有て同神小坐が右の神屋楯ハ神屋建小
て此小令造屋と有る其屋の宗大あり一ハ依れ事
此ハ八野を以て御名小負せ奉るを以て曉る可る者

なり神名式小神門郡八野神社風土記ハ矢野社と有
る此小令今も屋野村に云小立せ御在し坐に云る是
なり又同記ハ朝山郷郡家東南五里五十六步神魂命
御子眞玉著玉之邑日女命坐之爾時所造天下大
神大穴持命娶給而每朝通坐故云朝山に有る此ハ神
を以て神魂命に申す故有る事小其實ハ同神ハ
由此ハ傳十五卷故此矢野社小就て思寄れりハ
四百五下小云り故伊勢國壹志郡加良洲社に云有り今矢野村ハ御在し
坐て神名式小謂ゆる須氏神社是なりと云り祠官今
井氏の舊記ハ祭神稚日女尊欽明天皇の御時壹志直
青木に云人小託して攝津國活田長峽國より打摩志
咩流可美國須氏ハ地小遷給へり云るハ神名式小

攝津國八部郡生田神社 名神大月次 相嘗新嘗 有之此即神

功皇后御紀小稚日女尊詠之曰吾欲居活田長岐國因

以海上五十狹茅合祭之有之 是乃 此社より伊勢小勸請れ

る其地名を矢野村と云小就ても右の八野若日女命

を思合す可りゆける又傳二十五小注一徵せり

如く神名式小阿波國名方郡天石門別豐玉比賣神社

此ハ寶鏡開始章第二一書小謂ゆる玉作部遠祖豐玉

者造玉に有之ハ別神なり即右の稚日女尊の本社な

りけるを今も矢野村と云小立也御在坐と云り万

葉十四 四十 三十一 小妻隱矢野神山露霜尔之寶比始散卷惜

又玉葉集小梓弓春立りし物部の矢野の神山霞棚

曳ふと詠る矢野神山ハ何國ありとむ唯尋常の山

ありとむハ神山とハ云トを云雲の八野ハ里中の地

と聞ゆれば山とハ云へる非ずと雖も何方に在れ

矢野神山と云りハ此八野若日女命の御在處なる

可き事云も更なり和名抄郷名小播磨國赤穂郡八野

備後國甲奴郡矢野伊豫國喜多郡矢野など見ゆ 夫木集

俊頼妻隱す矢野の山あり 柏木ハ強面ヲ戀ハ我ガ年

ハ經め為家梓弓春と云より引替り早く祝ふ矢野

の里人同梓弓春と云より物部の矢野の松原時を知

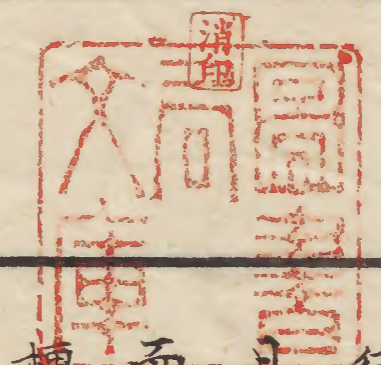
るのこ詠るなど唯ハ矢野と云ふ地名の有る依り詠

同記曰神門郡滑狹郷郡家南正八里須佐能遠命御子初加
 須世理比賣命坐之尔時所造天下大神命娶而通生時彼社
 之前有磐石哉詔故云南佐神龜三年改字滑狹
其上建滑也即詔滑磐石
 此和加須世理比賣命ハ上多々八野若日女命小同ト
 小彼謂由々三女神小テ渡レセ給フ由己小傳十
 五二百二十三十七五十五小安一ト注セレハ今云限小
 非ズ右小彼社ト云々ハ同記小謂由々奈賣佐社奈賣
 佐社トテ二所立セ御在レ坐寸舊地是あり此御社今
 ハ高倉山ト云小移レ奉レルトモ其舊地を見ル小彼
 社ハ其高倉山の尾崎トモ云ヘク地小テ上ナリ帯小

如く流石田る小川の有テ其落口の底ハ一面あり大
 磐石あり其面小大さ小岩坪ト唱ふる物凡許
 有レ因テ其山を岩坪山ト云ヒ其社を岩坪明神ト申
 一其地を神妻村訓曰加ト云ヒ近頃字音小唱來
牟都麻
 ありテ終小神シニ西村ト云事小成レウトテ若テ其岩坪
 の大磐石ハ四時共小水底小在ル事カレバ常小水苔
 の爲小甚滑ルル事小有レバ今其地小臨見
 小滑磐石哉ト詔給ヒ一神代の較略ト心小浮ビ
ナシレハアムカミ
 一奇一ト尊一トト言小絶タル神跡小有レキ方
 葉一十九ト小雖見飽奴吉野乃河之常滑乃絶事無久復

還見年十一十四 小徳口乃豊泊瀬道者常清乃恐道曾
戀由眼など有る常清は是なり大同類聚方小須西利
藥出雲國神門郡從八位上神門臣等之家傳方其元者
和加須西利比賣命所授也 有る此社小就たる事
う神名式小神門郡那賣佐神社同社坐和加須西利比
賣神社と所見たる此那賣佐神社は右の岩坪明神小
一高倉明神と申すおむ和加須西利比賣神社と
を今ハ共小合世紀りて兩社を一小成一奉りて此
ハ已小傳十五卷四百五丁ハ此御社の御事小就て引
其社記ハ所謂磐石者在神西村岩坪山岩坪明神高
倉明神是則祭大已賣命與山彦名須世理與賣命武内
那賣佐兩社是也 有る因て云事なるが後小安政五

年五月十八日杵築大社より出立て備後小越わいて
飯石郡須佐小赴く時佐ニ 小案内せられたる御
社小詣奉り神主 氏小達て問聞う自其神跡を
見奉り巡りて其消息を今注せらるる但神主の云る
くハ高倉社ハ式外小伊弉諾尊を祀れるを後小岩
坪明神二柱を合ヤ奉りて今ハ三社と成れり云る
ハ右の社記ハ女々異ふ川と云る此方正しく聞ゆ又
云けり此岩坪の小川ハ龍蛇ハ出る事有て
杵築大社ハ十月小海中より上る小其形状ハ凡て異
なるが其家小ハ二尾を藏め持り云り又右の岩坪
の中ハ何時と無く美小石の多く聚り有る國人産
の時ハハ必賜はり持て生れ小難産ハ愁無き事
ありと云ふ此大神の天下小万国小恩頼を幸ハハ御
在り坐す中ハ此程の靈威ハ何許りの御事小ハ御
在り坐す故小今記一置く者あり



右守政六年正月元日始焉至二月九日二百五十七紙稿
 成其同十日有鹿島香取詣之事十七日飯同廿五日發途
 行于遠江國三月五日地鎮神社遷座也因嘉永七年十一
 月四日震災之事余所始創也去年十一月十三日假遷官
 而今年奏功于茲也同十三日還復繼之同廿二日終焉巖
 檀本主人于時



